

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2020年11月6日提出
【計算期間】	第41期(自 2020年2月8日至 2020年8月7日)
【ファンド名】	三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０ 三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０
【発行者名】	三菱ＵＦＪ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松田 通
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目１２番１号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【連絡場所】	東京都千代田区有楽町一丁目１２番１号
【電話番号】	03-6250-4740
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第１【ファンドの状況】

１【ファンドの性格】

（１）【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

信託金の限度額は、各ファンドについて、5,000億円です。

* 委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券	MRF	
追加型		不動産投信		特殊型 ()
	内外	その他資産 ()	ETF	
		資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年１回	グローバル (日本を含む)	ファミリー ファンド	あり ()	日経２２５	ブル・ベア型
一般	年２回					
大型株	年４回	日本	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし	TOPIX	条件付運用型
中小型株	年６回	北米				
債券	年６回 (隔月)	欧州			その他 ()	ロング・ ショート型/ 絶対収益 追求型
一般	年１２回	アジア				
公債	年１２回 (毎月)	オセアニア				
社債	日々	中南米				その他 ()
その他債券	その他 ()	アフリカ				
クレジット 属性 ()		中近東 (中東)				
不動産投信		エマージング				
その他資産 (投資信託証券 (資産複合(株 式、債券、短期 金融資産)))						
資産複合 ()						

当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）でご覧いただけます。

ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MMF等の運営に関する規則」に規定するMMFをいいます。
	MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MMF等の運営に関する規則」に規定するMRFをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。

	公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（ＢＢ格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイイールド債等（ＢＢ格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信	信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
	決算頻度	
	年１回	信託約款において、年１回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年２回	信託約款において、年２回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	年４回	信託約款において、年４回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年６回（隔月）	信託約款において、年６回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年１２回（毎月）	信託約款において、年１２回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
	日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
	グローバル	信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本	信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米	信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州	信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア	信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	オセアニア	信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米	信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ	信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）	信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。

	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第２条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経２２５	信託約款において、日経２２５に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	ＴＯＰＩＸ	信託約款において、ＴＯＰＩＸに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型／絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

〔ファンドの目的・特色〕

ファンドの目的

国内債券、国内株式、外国債券、外国株式および短期資産を実質的な主要投資対象とし、「時間軸」を意識しながら分散投資を行い、長期的な成長および安定的な収益の獲得をめざします。

ファンドの特色

特色

1

内外の主要金融資産にバランスよく分散投資を行います。

国内債券、国内株式、外国債券、外国株式および短期資産への分散投資により、リスクの低減を図り、時間軸を意識しながら、長期的な成長および安定的な収益の獲得をめざします。

各ファンドの実質的な運用は、「三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド」、「マネー・マーケット・マザーファンド」を通じて行います。

ライフイベント(ターゲット・イヤー)到達後に安定運用に移行します。

投資開始当初は収益性資産(国内株式、外国債券、外国株式)中心の運用を行い、投資家のみなさまのライフイベントに接近する(運用期間が経過する)に伴い、安定性資産(国内債券、短期資産)等の比率を引き上げて安定運用に移行します。

特色

2

ライフイベントにあわせて2つのファンドからご選択いただけます。

投資家のみなさまにライフイベントが起きる時期を「ターゲット・イヤー」とし、2030年、2040年をターゲット・イヤーとする2つのファンドからお選びいただけます。なお、各ファンド間でのスイッチングが手数料なし[※]で可能です。

各ファンドは安定運用時期に近づくにしたがって株式の組み入れをしだいに減少させ、債券の組み入れをしだいに増加させることにより、リスクを減少させていく運用を行います。

※スイッチングの際は、換金するファンドに対して税金がかかります。

○三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030

国内債券32%、国内株式35%、外国債券10%、外国株式20%、およびコール・ローン等の短期金融商品3%の比率で配分したポートフォリオを当初ポートフォリオとします。

2030年の決算日の翌日(第61計算期間開始日)を「安定運用開始時期」とし、これ以降主として「マネー・マーケット・マザーファンド」を通じてわが国の短期公社債および短期金融商品に投資し、より安定的な運用を行います。

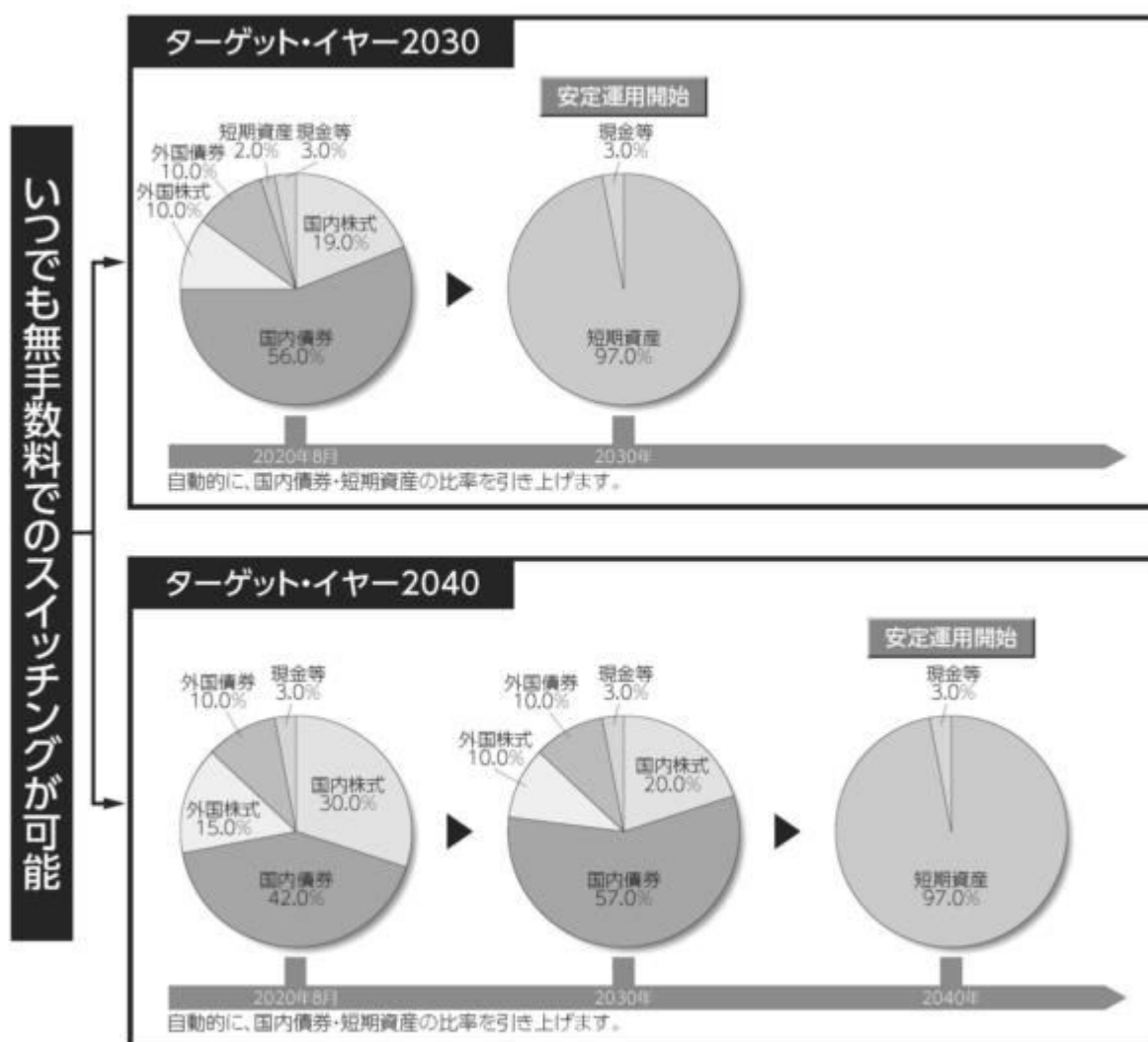
○三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2040

国内債券27%、国内株式40%、外国債券5%、外国株式25%、およびコール・ローン等の短期金融商品3%の比率で配分したポートフォリオを当初ポートフォリオとします。

2040年の決算日の翌日(第81計算期間開始日)を「安定運用開始時期」とし、これ以降主として「マネー・マーケット・マザーファンド」を通じてわが国の短期公社債および短期金融商品に投資し、より安定的な運用を行います。

■ターゲット・イヤーファンドのポートフォリオの変化

*2020年8月末現在に計画している基本資産配分であり、市況動向等によって組入比率が変更される場合があります。



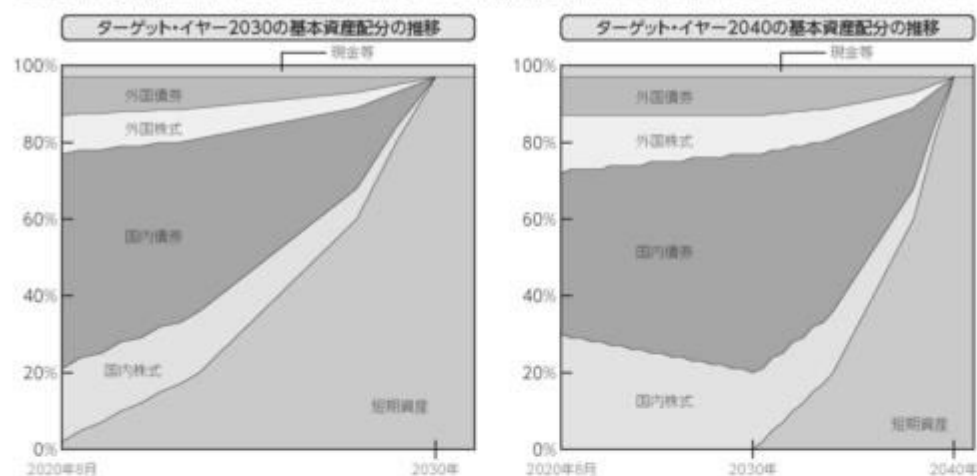
*三菱UFJ「ターゲット・イヤーファンド 2030」、三菱UFJ「ターゲット・イヤーファンド 2040」を総称して「ターゲット・イヤーファンド」、各ファンドをそれぞれ「ターゲット・イヤー2030」、「ターゲット・イヤー2040」といいます。

■ターゲット・イヤーファンドの運営

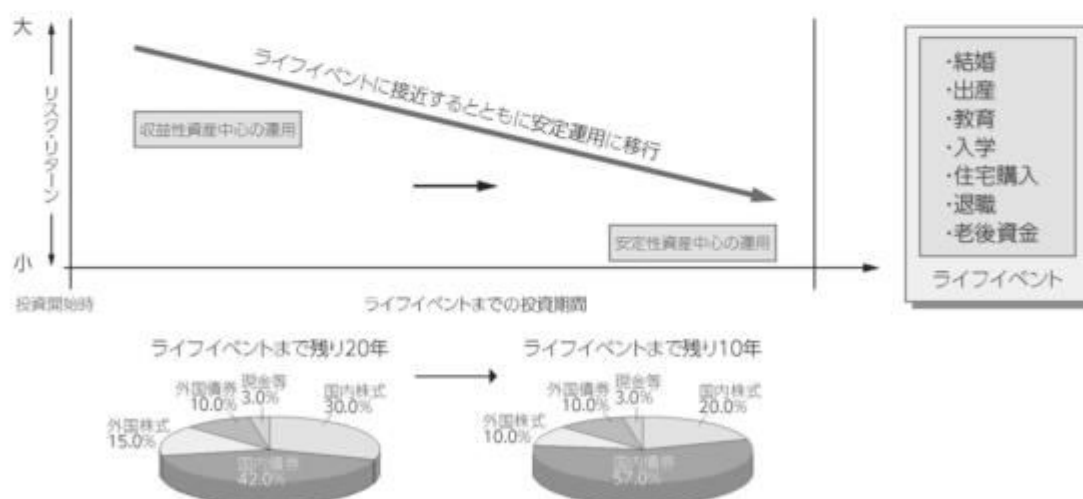
ターゲット・イヤーファンドは、時間の経過によってアセット・アロケーションが自動的に変化していきます。各ファンドの基本資産配分の推移は以下の通りとなります。

*市況動向等によって10年間の組み入れ変化は変わることがあります。

*2020年8月末現在に計画している基本資産配分であり、市況動向等によって組入比率が変更される場合があります。



■ライフイベントとターゲット・イヤーファンド



実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャー^{*}をコントロールする場合があります。

^{*}エクスポージャーとは、金融資産のうち市場の価格変動リスク・為替変動リスクにさらしている資産の割合のことをいいます。

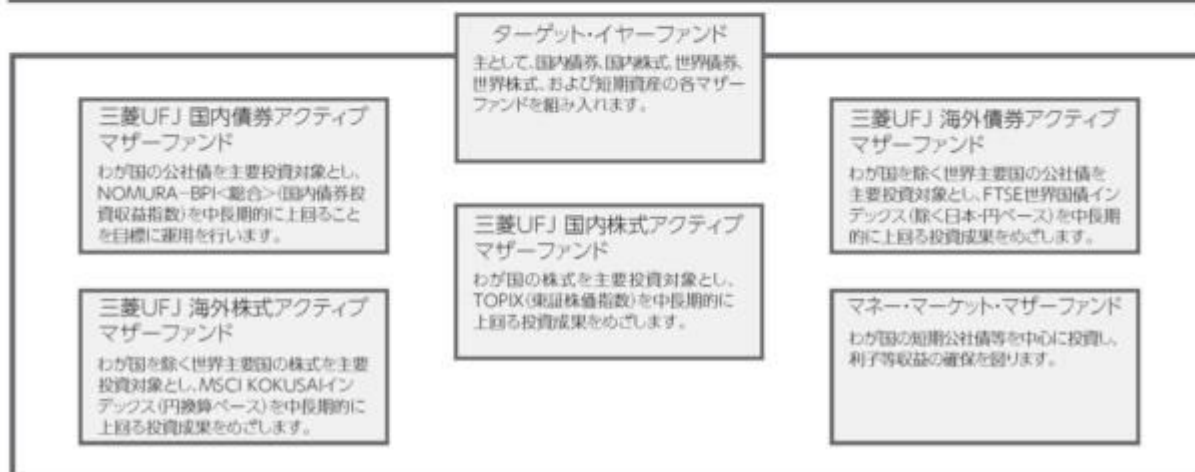
特色3

各ファンドは無手数料でスイッチング(乗換)が可能です。ただし、スイッチングの際は、換金するファンドに対して税金がかかります。



特色4

国内債券、国内株式、外国債券、外国株式、および短期資産に投資するそれぞれのマザーファンドを設定し、その運用にはベンチマーク※を定め、アクティブ運用により、これを上回る収益を追求します。

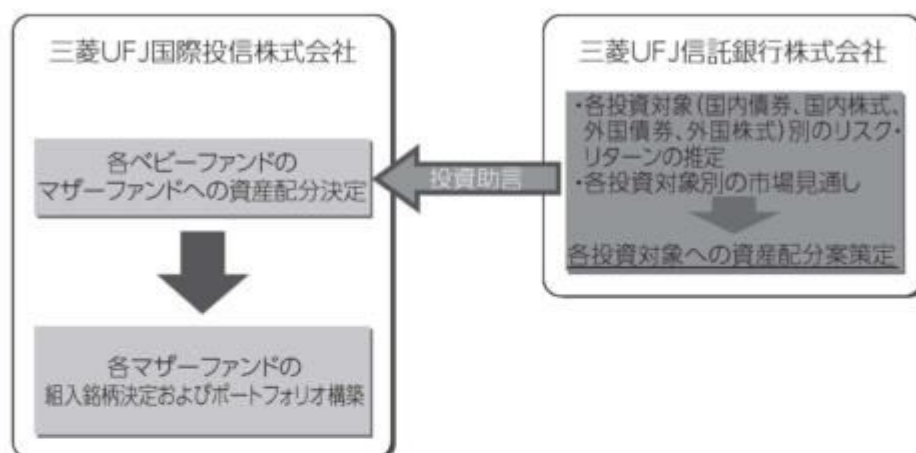


※ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

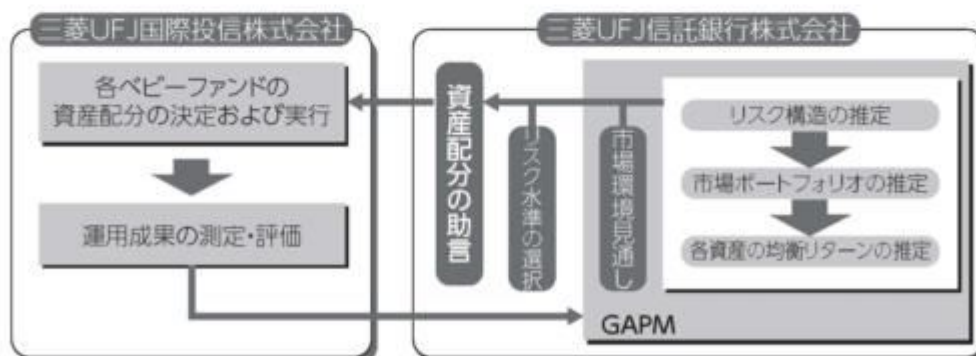
特色5

各ベビーファンドでの資産配分にあたりましては、三菱UFJ信託銀行株式会社からの投資助言[※]を受けます。

※投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無等については、変更する場合があります。



ベビーファンドの資産配分助言のプロセス

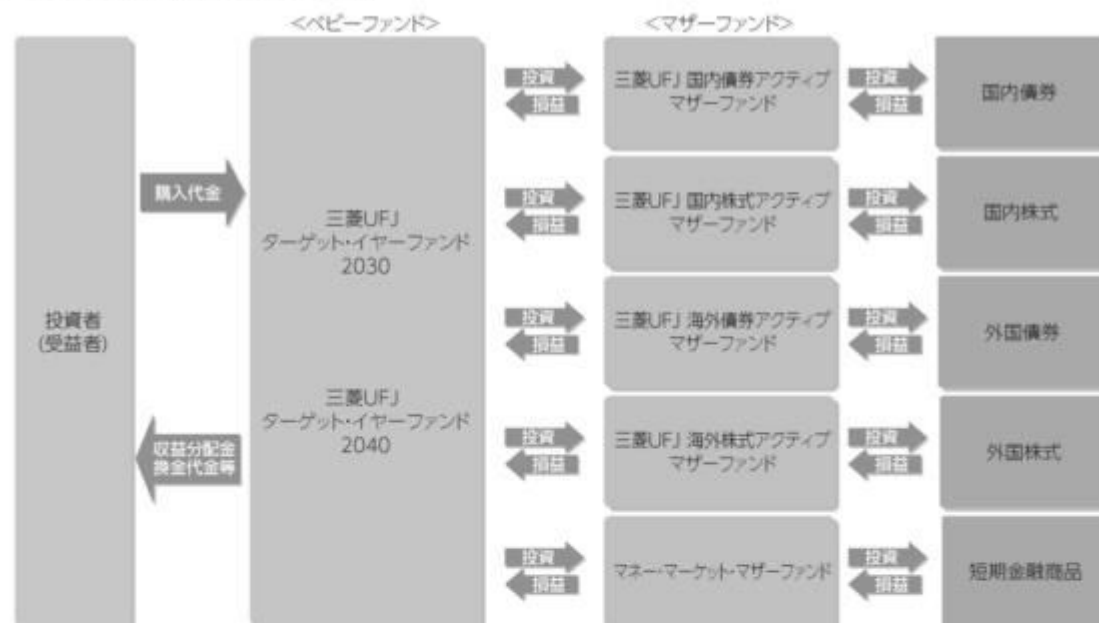


※GAPM(Global Asset Pricing Model)とは、市場均衡理論にその基礎を置く資本資産評価モデル(CAPM=Capital Asset Pricing Model)をグローバルに展開した、リスク・リターンの推計モデルです。

「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)をご覧ください。

■ファンドの仕組み

運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、内外の株式・債券等へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



■主な投資制限

「三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の45%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

「三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2040」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の80%未満とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の45%未満とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

■分配方針

- ・年2回の決算時(2・8月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

指数について

NOMURA-BPI<総合>(国内債券投資収益指数)とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

TOPIX(東証株価指数)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

MSCI KOKUSAIインデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。MSCI KOKUSAIインデックス(円換算ベース)は、MSCI KOKUSAIインデックス(米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCI KOKUSAIインデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

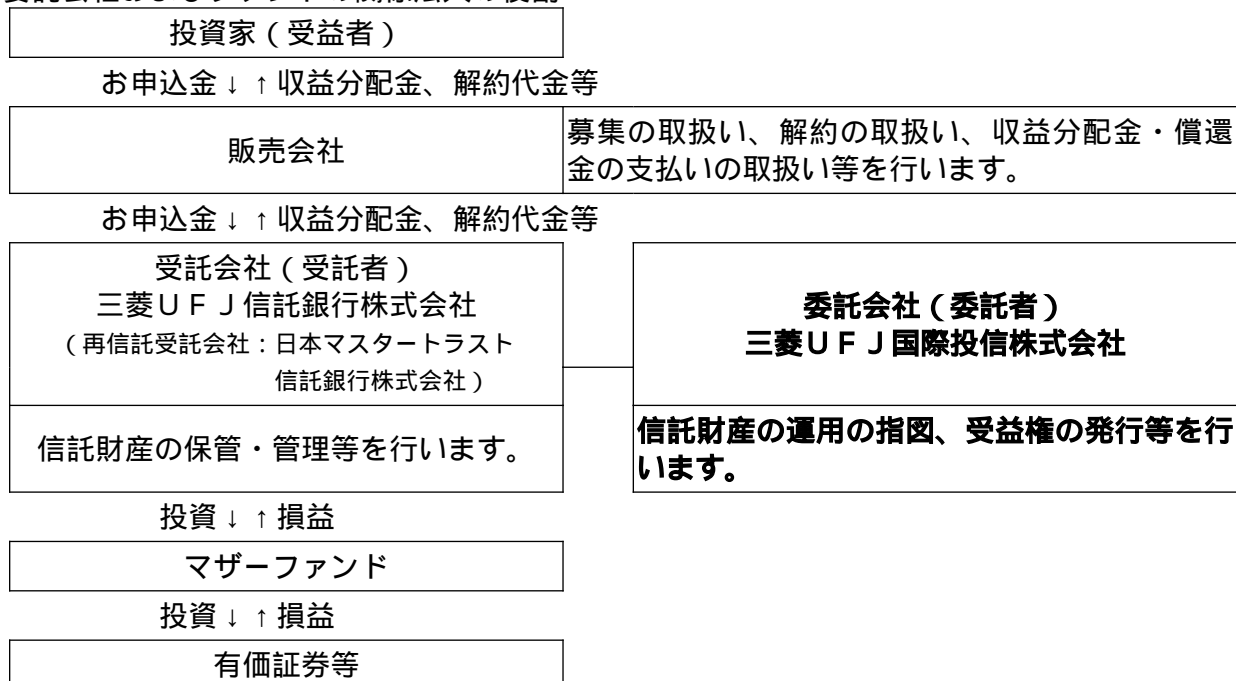
市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2)【ファンドの沿革】

2000年2月8日	設定日、信託契約締結、運用開始
2001年4月2日	名称を「パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2010」から「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2010」に、「パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2020」から「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2020」に、「パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2030」から「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2030」に、「パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2040」から「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2040」に変更
2005年10月1日	ファンドの委託会社としての業務をユーエフジェイパートナーズ投信株式会社から三菱ＵＦＪ投信株式会社に承継 名称を「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2010」から「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2010」に、「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2020」から「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2020」に、「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2030」から「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2030」に、「ＵＦ」パートナーズ ターゲット・イヤー ファンド 2040」から「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2040」に変更
2010年2月8日	「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2010」の信託を終了
2018年7月18日	ファンドの投資対象に「三菱ＵＦ」国内債券アクティブマザーファンド」、「三菱ＵＦ」国内株式アクティブマザーファンド」、「三菱ＵＦ」海外債券アクティブマザーファンド」、「三菱ＵＦ」海外株式アクティブマザーファンド」、「マネー・マーケット・マザーファンド」を追加
2018年11月7日	ファンドの投資対象から「国内債券マザーファンド」、「国内株式マザーファンド」、「世界債券マザーファンド」、「世界株式マザーファンド」、「短期資産マザーファンド」を削除
2020年2月7日	「三菱ＵＦ」ターゲット・イヤーファンド 2020」の信託を終了

(3) 【ファンドの仕組み】

委託会社およびファンドの関係法人の役割



委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

委託会社の概況（2020年8月末現在）

- ・金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
- ・設立年月日
1985年8月1日
- ・資本金
2,000百万円
- ・沿革
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱ＵＦＪ投信株式会社に変更
2015年7月 三菱ＵＦＪ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱ＵＦＪ国際投信株式会社に変更
- ・大株主の状況

株 主 名	住 所	所有株式数	所有比率
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

２【投資方針】

（１）【投資方針】

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド受益証券およびマネー・マーケット・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、内外の株式・公社債に直接投資することがあります。主として、三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド受益証券、三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド受益証券およびマネー・マーケット・マザーファンド受益証券への投資を通して、国内債券・国内株式・外国債券・外国株式への分散投資を行い、リスクの低減に努めつつ長期的に安定した収益の積み上げをめざします。

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030」

国内債券32%、国内株式35%、外国債券10%、外国株式20%、およびコール・ローン等の短期金融商品3%の比率で配分したポートフォリオを当初ポートフォリオとします。

安定運用開始時期に近づくにしたがって株式の組入れを漸減し、債券および短期金融商品の組入れを漸増することにより、リスクを減少させていく運用を行います。

2030年の決算日の翌日（第61計算期間開始日）を「安定運用開始時期」とし、これ以降マネー・マーケット・マザーファンドに100%投資を行い、より安定的な運用を行います。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040」

国内債券27%、国内株式40%、外国債券5%、外国株式25%、およびコール・ローン等の短期金融商品3%の比率で配分したポートフォリオを当初ポートフォリオとします。

安定運用開始時期に近づくにしたがって株式の組入れを漸減し、債券および短期金融商品の組入れを漸増することにより、リスクを減少させていく運用を行います。

2040年の決算日の翌日（第81計算期間開始日）を「安定運用開始時期」とし、これ以降マネー・マーケット・マザーファンドに100%投資を行い、より安定的な運用を行います。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、エクスポージャーのコントロールを行う場合があります。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（２）【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- １．次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第２条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める次のものに限ります。）

ａ．有価証券先物取引等

ｂ．スワップ取引

ｃ．金利先渡取引および為替先渡取引

ハ．約束手形

ニ．金銭債権

- ２．次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

有価証券の指図範囲

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社を委託会社とし、三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社を受託会社とする三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド、三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド、三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンドおよびマネー・マーケット・マザーファンド（「マザーファンド」または「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとします。

- １．株券または新株引受権証券
- ２．国債証券
- ３．地方債証券
- ４．特別の法律により法人の発行する債券
- ５．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。新株予約権付社債については、転換社債型新株予約権付社債（新株予約権付社債のうち、会社法第236条第１項第３号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものならびに会社法施行前の旧商法第341条の３第１項第７号および第８号の定めがあるものをいいます。）に限ります。）
- ６．資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第２条第１項第４号で定めるものをいいます。）
- ７．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第２条第１項第６号で定めるものをいいます。）
- ８．協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第２条第１項第７号で定めるものをいいます。）
- ９．資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第２条第１項第８号で定めるものをいいます。）
- １０．資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第13号で定めるものをいいます。）
- １１．コマーシャル・ペーパー
- １２．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- １３．外国または外国の者の発行する証券または証書で、１．から12．の証券または証書の性質を有するもの
- １４．投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定めるものをいいます。）
- １５．投資証券もしくは新投資口予約権証券または外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。16．において同じ。）で16．で定めるものの以外のもの
- １６．投資法人債券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。以下16．において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
- １７．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第２条第１項第18号で定めるものをいいます。）
- １８．オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第２条第１項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
- １９．預託証書（金融商品取引法第２条第１項第20号で定めるものをいいます。）
- ２０．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- ２１．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
- ２２．抵当証券（金融商品取引法第２条第１項第16号で定めるものをいいます。）
- ２３．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- ２４．外国の者に対する権利で23．の有価証券の性質を有するもの

なお、１．の証券または証書ならびに13．および19．の証券または証書のうち１．の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、２．から６．までの証券ならびに16．の証券ならびに13．および19．の証券または証書のうち２．から６．までの証券の性質を有するも

のを以下「公社債」といい、14．および15．の証券を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

この信託において投資の対象とする金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）は、次に掲げるものとします。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6．外国の者に対する権利で5．の権利の性質を有するもの

その他の投資対象

信託約款に定める次に掲げるもの。

- ・外国為替予約取引

<マザーファンドの概要>

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

投資態度

わが国の公社債を主要投資対象とします。ただし、事業債、円建外債についてはＢＢＢ格（Ｓ＆Ｐ、ムーディーズ、格付投資情報センターおよび日本格付研究所のいずれかから取得したもの）相当以上の格付を有する債券を対象とします。

NOMURA - BPI <総合>（国内債券投資収益指数）をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標に運用を行います。

経済や金利の分析をベースに、デュレーション・残存構成・債券種別等をコントロールするアクティブ運用を行います。具体的には、次のプロセスによります。

- 1）経済分析や市場分析等を踏まえて金利の方向性等を予測し、デュレーションに関する戦略を策定します。
- 2）また、同様の分析を行い金利の期間構造等を予測し、上記のデュレーション戦略を加味して、残存構成に関する戦略を策定します。
- 3）さらに、各債券種別間の利回り較差動向等を予測し、債券種別構成に関する戦略を策定します。
- 4）以上の戦略を総合して、ポートフォリオを構築します。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

金利先渡取引は信託約款の範囲で行います。

デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。

この値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

投資態度

TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指し

ます。

銘柄選択にあたっては、以下の２つの観点から行います。

１）中長期的な成長力の高い銘柄や業績改善度の大きい銘柄を選択

２）企業価値に対して株価が割安と判断され、かつ株価上昇が期待できる銘柄を選択

具体的には、１）経営者のリーダーシップ、２）企業戦略の適切さ、３）マーケット支配力・競争力、４）産業の循環、産業構造の変化等の定性的な要素を踏まえ、中長期的にみて高い利益成長が期待できる銘柄や業績の大幅な改善が見込める銘柄を選択し、株価の妥当性をチェックしたうえで、組み入れを図ります。なお、株価評価は、企業の利益成長率に見合った適正価値が存在するというＧＡＲＰ（Growth at Reasonable Price）の考え方をベースに行います。また、各種評価尺度（株価収益率、株価キャッシュフロー倍率、株価売上高倍率、株価純資産倍率、配当利回り等）を用いて行う定量的な分析に、定性的な分析を加えた結果、「現在の株価が妥当株価に比して割安に放置されており、かつ今後株価上昇が期待できる」と判断される銘柄についても、適宜組み入れを図ります。

株式の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

株式への投資に制限を設けません。

投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の５％以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

金利先渡取引は信託約款の範囲で行います。

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国を除く世界主要国の公社債を主要投資対象とします。

投資態度

F T S E 世界国債インデックス（除く日本・円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指します。

運用にあたっては、各国のマクロ分析や金利予測に基づいて、カントリーアロケーション、デュレーションおよび残存構成のコントロール、利回り較差に着目した銘柄選択でアクティブに超過収益の獲得を目指します。さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。

組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。ただし、エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。

公社債の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

外貨建資産への投資に制限を設けません。

有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

金利先渡取引および為替先渡取引は信託約款の範囲で行います。

外国為替予約取引は信託約款の範囲で行います。

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国を除く世界主要国の株式を主要投資対象とします。

投資態度

MSCI KOKUSAIインデックス（円換算ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指します。

運用にあたっては、カントリーアロケーションと銘柄選択の双方におけるアクティブ戦略により、超過収益の獲得を目指します。カントリーアロケーションについてはマクロシナリオからのトップダウンアプローチにより決定します。また組入銘柄選択については、企業の成長力と株価を評価することにより決定します。さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。

組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。ただし、エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。

株式の組入比率は高位（通常の状態では90%以上）を基本とします。

市況動向、資金動向等によっては、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

株式への投資に制限を設けません。

投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への投資に制限を設けません。

有価証券先物取引等は信託約款の範囲で行います。

スワップ取引は信託約款の範囲で行います。

金利先渡取引および為替先渡取引は信託約款の範囲で行います。

外国為替予約取引は信託約款の範囲で行います。

マネー・マーケット・マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国の公社債等を主要投資対象とします。

投資態度

わが国の短期公社債等を中心に投資し、利子等収益の確保を図ります。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

株式への投資は行いません。

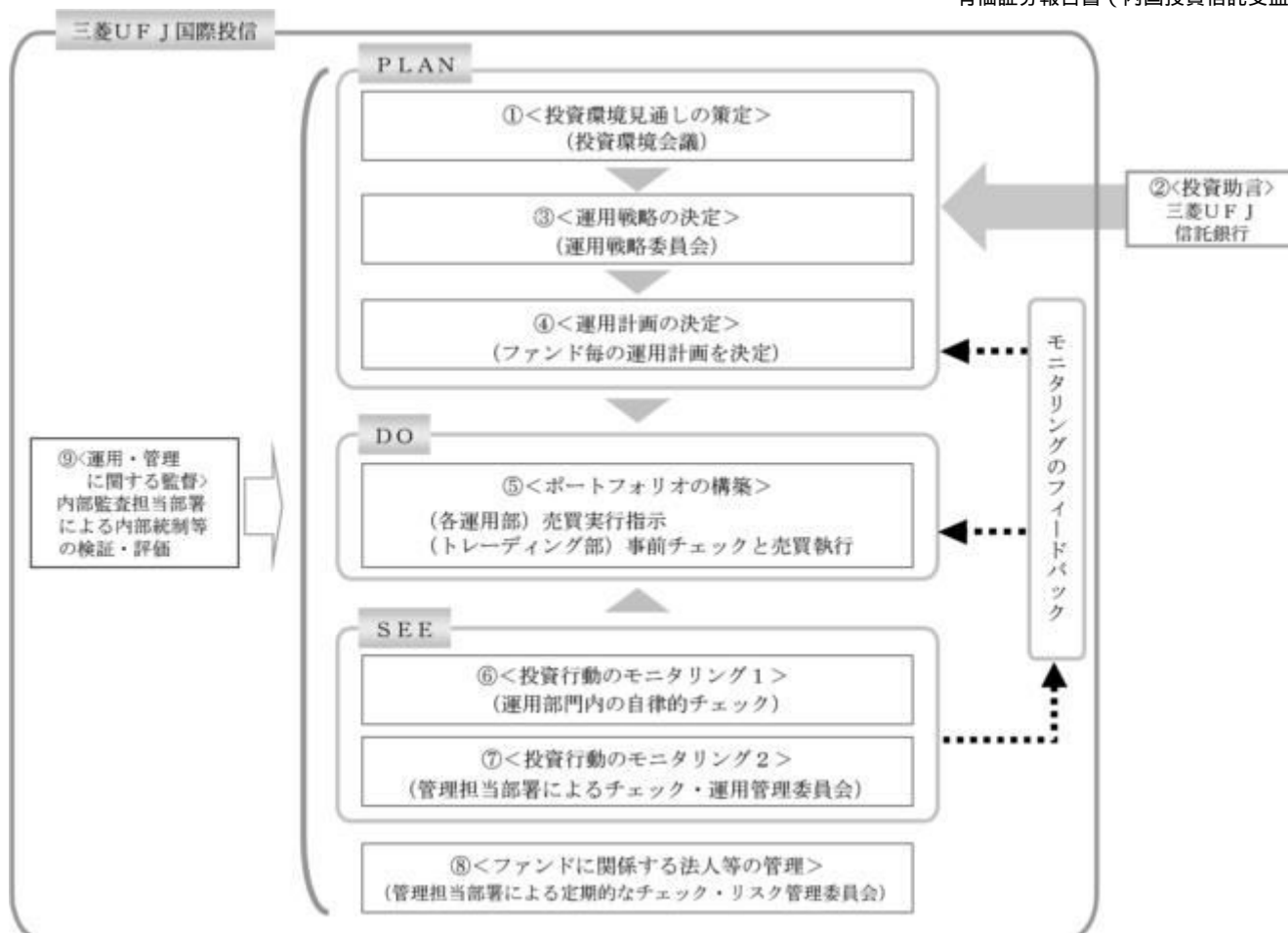
外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等を行うことができます。

スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

金利先渡取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

（３）【運用体制】



投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

投資助言

当ファンドは、三菱UFJ信託銀行（「助言元」といいます。）から運用戦略または運用計画の立案に資する投資助言を受けています。

運用戦略の決定

運用戦略委員会において、で策定された投資環境見通し、およびの投資助言に沿って運用戦略を決定します。

運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

投資行動のモニタリング1

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。

投資行動のモニタリング2

運用部から独立した管理担当部署（40～60名程度）は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

ファンドに関係する法人等の管理

助言元、受託会社等、ファンドの運営に関係する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、リスク管理委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

運用・管理に関する監督

内部監査担当部署（10名程度）は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

なお、委託会社に関する「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。

「運用担当者に係る事項」 <https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>

（４）【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づいて運用を行います。

（５）【投資制限】

< 信託約款に定められた投資制限 >

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030」

株式

- a．委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下 において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の70以上となる投資の指図をしません。
- b．a．において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

外貨建資産

- a．委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下 において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の45以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の45以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- b．a．において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040」

株式

- a．委託会社は、信託財産に属する株式（株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下 において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の80以上となる投資の指図をしません。
- b．a．において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

外貨建資産

- a．委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます。以下 において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分

の45以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上り等により100分の45以上となった場合には、速やかにこれを調整します。

- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

< ファンド共通 >

投資信託証券

- a. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。以下同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

スワップ取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

信用取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。
- b. a. の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内である場合においてできます。
- c. 信託財産の一部解約等の事由によりb. の売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

外国為替予約取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- b. a. の予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産（マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。）の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- c. b. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- d. b. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

公社債の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. a. の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

投資する株式等の範囲

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
- b. a. の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができます。

金利先渡取引および為替先渡取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- d. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

有価証券の貸付

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. a. に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

公社債の空売り

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない公社債またはの規定により借り入れた公社債を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、売り付けた公社債の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- b. a. の売付けの指図は、当該売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の売付けに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制限されることがあります。

デリバティブ取引等

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。

信用リスクの分散規制

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

< その他法令等に定められた投資制限 >

- ・ 同一の法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（１）投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

（主なりスクであり、以下に限定されるものではありません。）

価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

為替変動リスク

実質的な主要投資対象である海外の株式や公社債は外貨建資産であり、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

信用リスク

信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのこと

を流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

留意事項

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

（２）投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。この内容は運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

トレーディング担当部署

有価証券等の売買執行および発注に係る法令等の遵守および監視・牽制を行います。

コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

<流動性リスクに対する管理体制>

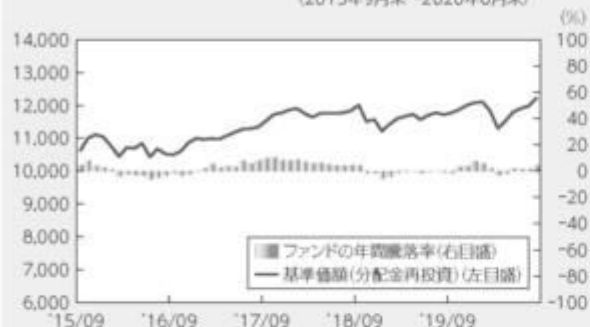
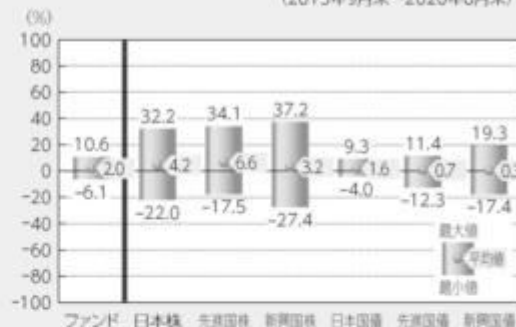
流動性リスクは、運用部門で市場の流動性の把握に努め、投資対象・売買数量等を適切に選択することによりコントロールしています。また、運用部門から独立したリスク管理担当部署においても流動性についての情報収集や分析・管理を行い、この結果はリスク管理に関する会議体等に報告されます。

* 組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

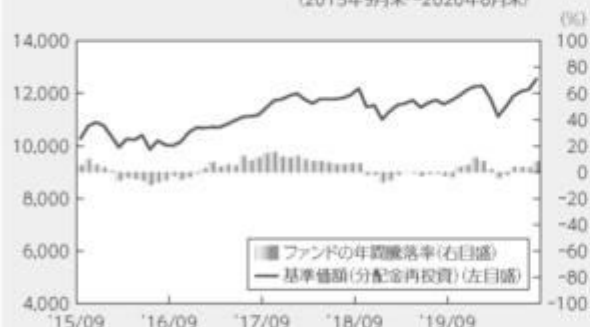
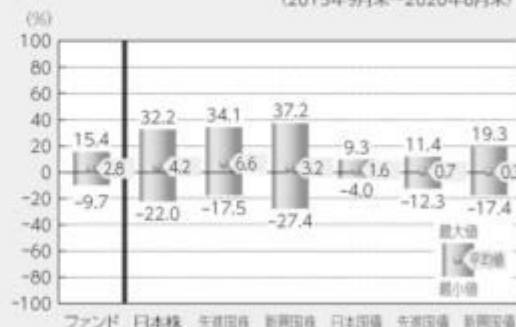
下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移
(2015年9月末～2020年8月末)● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較
(2015年9月末～2020年8月末)

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2040

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移
(2015年9月末～2020年8月末)● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較
(2015年9月末～2020年8月末)

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI (国債)	NOMURA-BPI (国債) とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込価額（発行価格）× 2.2%（税抜 2%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込手数料は販売会社にご確認ください。

再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

「ターゲット・イヤーファンド」を構成するファンドを解約した受取金額をもって解約請求受付日当日に他の構成ファンドの取得申込みを行う場合（「スイッチング」といいます。）、申込手数料はかかりません。

申込手数料の対価として提供する役務の内容は、ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等です。

(2)【換金（解約）手数料】

かかりません。

換金（解約）手数料の対価として提供する役務の内容は、商品の換金に関する事務手続等です。

(3)【信託報酬等】

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030」

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.21%（税抜1.1%）の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1 万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × （保有日数 / 365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・ 信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・ 信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.58%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.44%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.08%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

「三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040」

- ・ 信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に以下に定める率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

計算期間 ^(注)	信託報酬率
2030年2月7日までの場合	年1.54% (税抜 年1.4%)
2030年2月8日以降の場合	年1.21% (税抜 年1.1%)

1 万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × （保有日数 / 365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・ 信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

- ・ 信託報酬の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

計算期間 ^(注)	委託会社	販売会社	受託会社
2030年2月7日までの場合	0.71%	0.61%	0.08%
2030年2月8日以降の場合	0.58%	0.44%	0.08%

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

各支払先が信託報酬の対価として提供する役務の内容は以下の通りです。

支払先	対価として提供する役務の内容
委託会社	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

（注）休日が変更となった場合は、日付が変更になることがあります。

（４）【その他の手数料等】

- ・ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入を行う場合の借入金の利息および借入れに関する品借料は、受益者の負担とし、信託財産

中から支弁します。

- ・信託財産に係る監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率を乗じて得た額とし、信託財産中から支弁します。支弁時期は信託報酬と同様です。
- ・信託財産（投資している投資信託を含みます。）の組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等（消費税等相当額を含みます。）、先物取引・オプション取引等に要する費用および外貨建資産の保管等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

- （注）手数料等については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用（手数料等）の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

１．収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除は適用されません。）・申告分離課税を選択することもできます。

２．解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

上記は2020年8月末現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０】

（１）【投資状況】

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	35,327,643	96.50
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	1,281,446	3.50
純資産総額		36,609,089	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
------	----	-----	----	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド	13,728,886	1.4679	20,152,632	1.4621	20,073,004	54.83
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド	4,597,583	1.4391	6,616,382	1.4952	6,874,306	18.78
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド	1,377,443	2.6487	3,648,434	2.7950	3,849,953	10.52
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド	1,182,063	3.2585	3,851,753	3.2235	3,810,380	10.41
日本	親投資信託受益証券	マネー・マーケット・マザーファンド	707,131	1.0181	720,000	1.0182	720,000	1.97

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	96.50
合計	96.50

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和2年8月末日、同日前１年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

		純資産総額		基準価額 （1万口当たりの純資産価額）	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第22計算期間末日	（平成23年 2月 7日）	461,716,933	461,716,933	7,789	7,789
第23計算期間末日	（平成23年 8月 8日）	430,781,320	430,781,320	7,248	7,248
第24計算期間末日	（平成24年 2月 7日）	428,641,350	428,641,350	7,193	7,193
第25計算期間末日	（平成24年 8月 7日）	430,311,653	430,311,653	7,222	7,222
第26計算期間末日	（平成25年 2月 7日）	498,837,197	498,837,197	8,361	8,361
第27計算期間末日	（平成25年 8月 7日）	533,320,364	533,320,364	9,063	9,063
第28計算期間末日	（平成26年 2月 7日）	552,463,965	552,463,965	9,415	9,415
第29計算期間末日	（平成26年 8月 7日）	568,193,351	568,193,351	9,660	9,660
第30計算期間末日	（平成27年 2月 9日）	599,819,546	614,567,764	10,168	10,418

第31計算期間末日	(平成27年 8月 7日)	629,996,769	648,044,563	10,472	10,772
第32計算期間末日	(平成28年 2月 8日)	607,948,532	607,948,532	9,849	9,849
第33計算期間末日	(平成28年 8月 8日)	602,973,626	602,973,626	9,754	9,754
第34計算期間末日	(平成29年 2月 7日)	628,136,754	628,136,754	10,136	10,136
第35計算期間末日	(平成29年 8月 7日)	641,839,633	654,234,109	10,357	10,557
第36計算期間末日	(平成30年 2月 7日)	659,868,239	672,445,086	10,493	10,693
第37計算期間末日	(平成30年 8月 7日)	671,456,903	674,656,084	10,494	10,544
第38計算期間末日	(平成31年 2月 7日)	445,860,071	445,860,071	10,213	10,213
第39計算期間末日	(令和 1年 8月 7日)	32,932,890	33,253,650	10,267	10,367
第40計算期間末日	(令和 2年 2月 7日)	35,032,526	35,695,265	10,572	10,772
第41計算期間末日	(令和 2年 8月 7日)	36,170,229	36,170,229	10,500	10,500
令和 1年 8月末日		33,409,395	—	10,345	—
9月末日		33,673,103	—	10,395	—
10月末日		34,109,413	—	10,482	—
11月末日		34,661,323	—	10,602	—
12月末日		35,156,595	—	10,666	—
令和 2年 1月末日		35,387,519	—	10,690	—
2月末日		34,588,974	—	10,249	—
3月末日		33,186,334	—	9,788	—
4月末日		34,052,196	—	9,998	—
5月末日		34,996,517	—	10,229	—
6月末日		35,468,748	—	10,322	—
7月末日		35,727,162	—	10,382	—
8月末日		36,609,089	—	10,593	—

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第22計算期間	0円
第23計算期間	0円
第24計算期間	0円
第25計算期間	0円
第26計算期間	0円
第27計算期間	0円
第28計算期間	0円
第29計算期間	0円
第30計算期間	250円
第31計算期間	300円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	0円

第35計算期間	200円
第36計算期間	200円
第37計算期間	50円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円
第40計算期間	200円
第41計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第22計算期間	4.31
第23計算期間	6.94
第24計算期間	0.75
第25計算期間	0.40
第26計算期間	15.77
第27計算期間	8.39
第28計算期間	3.88
第29計算期間	2.60
第30計算期間	7.84
第31計算期間	5.94
第32計算期間	5.94
第33計算期間	0.96
第34計算期間	3.91
第35計算期間	4.15
第36計算期間	3.24
第37計算期間	0.48
第38計算期間	2.67
第39計算期間	1.50
第40計算期間	4.91
第41計算期間	0.68

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第22計算期間	2,616,002	67,348	592,766,122
第23計算期間	1,727,491	136,299	594,357,314
第24計算期間	2,581,017	1,056,737	595,881,594
第25計算期間	1,645,536	1,699,803	595,827,327

第26計算期間	1,580,829	817,001	596,591,155
第27計算期間	1,251,294	9,395,497	588,446,952
第28計算期間	1,168,759	2,801,704	586,814,007
第29計算期間	1,599,028	198,625	588,214,410
第30計算期間	2,606,477	892,130	589,928,757
第31計算期間	13,230,093	1,565,712	601,593,138
第32計算期間	15,875,990	220,275	617,248,853
第33計算期間	1,061,371	121,894	618,188,330
第34計算期間	2,491,906	947,922	619,732,314
第35計算期間	970,827	979,296	619,723,845
第36計算期間	11,005,263	1,886,734	628,842,374
第37計算期間	11,949,968	956,008	639,836,334
第38計算期間	4,070,180	207,362,164	436,544,350
第39計算期間	981,974	405,450,232	32,076,092
第40計算期間	1,255,378	194,506	33,136,964
第41計算期間	1,498,808	189,430	34,446,342

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０】

（１）【投資状況】

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	29,638,326	97.08
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	892,332	2.92
純資産総額		30,530,658	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 （円）	簿価 金額 （円）	評価 単価 （円）	評価 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマ ザーファンド	8,565,582	1.4677	12,572,247	1.4621	12,523,737	41.02
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマ ザーファンド	6,122,393	1.4391	8,810,735	1.4952	9,154,202	29.98
日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマ ザーファンド	1,711,930	2.6487	4,534,389	2.7950	4,784,844	15.67

日本	親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマ ザーファンド	985,123	3.2585	3,210,023	3.2235	3,175,543	10.40
----	-----------	----------------------------	---------	--------	-----------	--------	-----------	-------

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	97.08
合計	97.08

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和2年8月末日、同日前１年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 （１万口当たりの純資産価額）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第22計算期間末日（平成23年 2月 7日）	431,285,629	431,285,629	7,284	7,284
第23計算期間末日（平成23年 8月 8日）	393,844,136	393,844,136	6,641	6,641
第24計算期間末日（平成24年 2月 7日）	390,403,089	390,403,089	6,587	6,587
第25計算期間末日（平成24年 8月 7日）	391,783,146	391,783,146	6,597	6,597
第26計算期間末日（平成25年 2月 7日）	462,170,187	462,170,187	7,871	7,871
第27計算期間末日（平成25年 8月 7日）	509,806,803	509,806,803	8,712	8,712
第28計算期間末日（平成26年 2月 7日）	532,219,134	532,219,134	9,108	9,108
第29計算期間末日（平成26年 8月 7日）	549,991,538	549,991,538	9,400	9,400
第30計算期間末日（平成27年 2月 9日）	591,202,952	599,950,946	10,137	10,287
第31計算期間末日（平成27年 8月 7日）	617,904,654	641,352,832	10,541	10,941
第32計算期間末日（平成28年 2月 8日）	580,569,409	580,569,409	9,635	9,635
第33計算期間末日（平成28年 8月 8日）	572,276,201	572,276,201	9,488	9,488
第34計算期間末日（平成29年 2月 7日）	607,776,504	607,776,504	10,074	10,074
第35計算期間末日（平成29年 8月 7日）	622,927,531	641,011,806	10,334	10,634

第36計算期間末日（平成30年 2月 7日）	649,222,877	664,584,889	10,565	10,815
第37計算期間末日（平成30年 8月 7日）	663,140,728	669,411,091	10,576	10,676
第38計算期間末日（平成31年 2月 7日）	436,689,225	436,689,225	10,133	10,133
第39計算期間末日（令和 1年 8月 7日）	28,009,844	28,285,227	10,171	10,271
第40計算期間末日（令和 2年 2月 7日）	28,809,270	29,756,031	10,650	11,000
第41計算期間末日（令和 2年 8月 7日）	29,978,647	29,978,647	10,580	10,580
令和 1年 8月末日	28,511,586	—	10,248	—
9月末日	28,383,690	—	10,379	—
10月末日	28,381,880	—	10,532	—
11月末日	28,874,144	—	10,732	—
12月末日	29,256,088	—	10,844	—
令和 2年 1月末日	29,392,049	—	10,866	—
2月末日	28,159,413	—	10,121	—
3月末日	26,556,451	—	9,520	—
4月末日	27,496,577	—	9,832	—
5月末日	28,718,771	—	10,190	—
6月末日	29,219,628	—	10,340	—
7月末日	29,482,311	—	10,405	—
8月末日	30,530,658	—	10,751	—

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第22計算期間	0円
第23計算期間	0円
第24計算期間	0円
第25計算期間	0円
第26計算期間	0円
第27計算期間	0円
第28計算期間	0円
第29計算期間	0円
第30計算期間	150円
第31計算期間	400円
第32計算期間	0円
第33計算期間	0円
第34計算期間	0円
第35計算期間	300円
第36計算期間	250円
第37計算期間	100円
第38計算期間	0円
第39計算期間	100円

第40計算期間	350円
第41計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第22計算期間	5.74
第23計算期間	8.82
第24計算期間	0.81
第25計算期間	0.15
第26計算期間	19.31
第27計算期間	10.68
第28計算期間	4.54
第29計算期間	3.20
第30計算期間	9.43
第31計算期間	7.93
第32計算期間	8.59
第33計算期間	1.52
第34計算期間	6.17
第35計算期間	5.55
第36計算期間	4.65
第37計算期間	1.05
第38計算期間	4.18
第39計算期間	1.36
第40計算期間	8.15
第41計算期間	0.65

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第22計算期間	1,162,022	566,552	592,074,164
第23計算期間	1,076,552	70,526	593,080,190
第24計算期間	1,213,358	1,586,930	592,706,618
第25計算期間	1,138,891	—	593,845,509
第26計算期間	989,653	7,642,171	587,192,991
第27計算期間	776,473	2,825,106	585,144,358
第28計算期間	831,733	1,641,037	584,335,054
第29計算期間	772,245	18,793	585,088,506
第30計算期間	658,951	2,547,836	583,199,621

第31計算期間	8,292,658	5,287,821	586,204,458
第32計算期間	19,376,671	3,029,190	602,551,939
第33計算期間	633,829	—	603,185,768
第34計算期間	1,066,188	963,514	603,288,442
第35計算期間	463,138	942,396	602,809,184
第36計算期間	15,191,572	3,520,251	614,480,505
第37計算期間	13,155,090	599,216	627,036,379
第38計算期間	5,876,981	201,956,509	430,956,851
第39計算期間	406,478	403,825,018	27,538,311
第40計算期間	625,479	1,113,466	27,050,324
第41計算期間	1,284,313	—	28,334,637

（参考）

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

投資状況

令和 2年 8月31日現在
（単位：円）

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	日本	6,950,384,900	60.75
特殊債券	日本	100,089,000	0.87
社債券	日本	3,894,374,000	34.04
	スイス	100,007,000	0.87
	小計	3,994,381,000	34.91
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	396,813,033	3.47
純資産総額		11,441,667,933	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国 / 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 （円）	簿価 金額 （円）	評価 単価 （円）	評価 金額 （円）	利率 （％）	償還期限 （年/月/日）	投資 比率 （％）
日本	国債証券	第354回利付国債（10年）	460,000,000	101.66	467,658,000	100.85	463,928,400	0.100000	2029/3/20	4.05
日本	国債証券	第166回利付国債（20年）	260,000,000	108.15	281,197,400	105.49	274,284,400	0.700000	2038/9/20	2.40

日本	国債証券	第１４２回利付国債（５年）	270,000,000	101.03	272,805,900	100.84	272,273,400	0.100000	2024/12/20	2.38
日本	国債証券	第１４６回利付国債（２０年）	170,000,000	121.08	205,850,700	119.23	202,692,700	1.700000	2033/9/20	1.77
日本	社債券	第３回マラヤン・バンキング（２０１９）	200,000,000	100.11	200,234,000	99.96	199,924,000	0.270000	2022/5/20	1.75
日本	社債券	第６回マラヤン・バンキング	200,000,000	100.03	200,060,000	99.38	198,774,000	0.224000	2023/2/13	1.74
日本	国債証券	第１６２回利付国債（２０年）	180,000,000	106.62	191,925,300	103.93	187,090,200	0.600000	2037/9/20	1.64
日本	国債証券	第１５２回利付国債（２０年）	130,000,000	115.41	150,039,000	113.25	147,232,800	1.200000	2035/3/20	1.29
日本	国債証券	第１２８回利付国債（２０年）	120,000,000	120.68	144,827,500	119.29	143,155,200	1.900000	2031/6/20	1.25
日本	国債証券	第１５０回利付国債（２０年）	120,000,000	118.44	142,133,200	115.92	139,111,200	1.400000	2034/9/20	1.22
日本	国債証券	第５８回利付国債（３０年）	130,000,000	112.07	145,702,700	105.98	137,774,000	0.800000	2048/3/20	1.20
日本	国債証券	第１２５回利付国債（２０年）	110,000,000	123.77	136,157,300	122.11	134,321,000	2.200000	2031/3/20	1.17
日本	国債証券	第１５９回利付国債（２０年）	120,000,000	106.48	127,785,600	104.17	125,011,200	0.600000	2036/12/20	1.09
日本	国債証券	第１２３回利付国債（２０年）	100,000,000	121.97	121,970,500	120.70	120,700,000	2.100000	2030/12/20	1.05
日本	国債証券	第６０回利付国債（３０年）	110,000,000	113.97	125,371,400	108.50	119,355,500	0.900000	2048/9/20	1.04
日本	国債証券	第１４５回利付国債（２０年）	100,000,000	120.81	120,817,300	119.01	119,017,000	1.700000	2033/6/20	1.04
日本	国債証券	第１４１回利付国債（２０年）	100,000,000	120.88	120,880,000	118.65	118,650,000	1.700000	2032/12/20	1.04
日本	国債証券	第１４３回利付国債（２０年）	100,000,000	119.74	119,747,800	117.56	117,568,000	1.600000	2033/3/20	1.03
日本	国債証券	第１４９回利付国債（２０年）	100,000,000	119.53	119,533,900	117.14	117,143,000	1.500000	2034/6/20	1.02
日本	国債証券	第９９回利付国債（２０年）	100,000,000	117.56	117,560,000	115.67	115,670,000	2.100000	2027/12/20	1.01
日本	国債証券	第１５３回利付国債（２０年）	100,000,000	116.17	116,171,200	114.73	114,739,000	1.300000	2035/6/20	1.00
日本	国債証券	第４２回利付国債（３０年）	90,000,000	130.89	117,809,600	126.74	114,074,100	1.700000	2044/3/20	1.00
日本	国債証券	第１５４回利付国債（２０年）	100,000,000	116.25	116,257,000	113.28	113,287,000	1.200000	2035/9/20	0.99
日本	国債証券	第４６回利付国債（３０年）	90,000,000	127.49	114,745,200	122.80	110,523,600	1.500000	2045/3/20	0.97
日本	国債証券	第５４回利付国債（３０年）	100,000,000	111.96	111,962,000	106.28	106,283,000	0.800000	2047/3/20	0.93
日本	社債券	第８回みずほコーポレート銀行（劣後特約付）	100,000,000	101.95	101,956,000	101.73	101,733,000	1.620000	2021/10/29	0.89
日本	国債証券	第３５０回利付国債（１０年）	100,000,000	101.79	101,795,000	101.05	101,059,000	0.100000	2028/3/20	0.88
日本	社債券	第２７回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100.91	100,911,000	100.88	100,885,000	0.600000	2024/7/10	0.88
日本	社債券	第５００回関西電力	100,000,000	101.01	101,012,000	100.76	100,763,000	0.455000	2026/3/19	0.88
日本	社債券	第２８回三菱東京ＵＦＪ銀行（劣後特約付）	100,000,000	101.34	101,340,000	100.57	100,573,000	1.560000	2021/1/20	0.88

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	60.75
特殊債券	0.87
社債券	34.91
合計	96.53

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

投資状況

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
株式	日本	7,663,476,540	97.35
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	208,935,841	2.65
純資産総額		7,872,412,381	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国／地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	J TOWER	情報・通信業	60,500	4,668.35	282,435,418	5,540.00	335,170,000	4.26
日本	株式	プロレド・パートナーズ	サービス業	42,600	3,938.57	167,783,082	5,660.00	241,116,000	3.06
日本	株式	第一三共	医薬品	23,000	8,033.97	184,781,310	9,447.00	217,281,000	2.76
日本	株式	イビデン	電気機器	61,700	2,402.69	148,245,973	3,325.00	205,152,500	2.61

日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	74,900	2,763.86	207,013,114	2,729.00	204,402,100	2.60
日本	株式	任天堂	その他製品	3,600	39,721.35	142,996,860	56,740.00	204,264,000	2.59
日本	株式	中外製薬	医薬品	43,200	4,226.10	182,567,520	4,721.00	203,947,200	2.59
日本	株式	ソニー	電気機器	24,500	6,858.94	168,044,030	8,309.00	203,570,500	2.59
日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	7,000	21,174.79	148,223,530	27,150.00	190,050,000	2.41
日本	株式	スクウェア・エニックス・ホールディングス	情報・通信業	26,400	4,784.53	126,311,592	6,990.00	184,536,000	2.34
日本	株式	富士通	電気機器	12,800	11,648.63	149,102,464	13,820.00	176,896,000	2.25
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	24,900	7,149.79	178,029,771	7,006.00	174,449,400	2.22
日本	株式	日本電気	電気機器	31,100	4,928.40	153,273,240	5,590.00	173,849,000	2.21
日本	株式	トピラスシステムズ	情報・通信業	83,900	1,856.64	155,772,281	2,003.00	168,051,700	2.13
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	61,700	2,461.43	151,870,231	2,723.50	168,039,950	2.13
日本	株式	S Gホールディングス	陸運業	34,400	2,372.92	81,628,448	4,875.00	167,700,000	2.13
日本	株式	ソフトバンクグループ	情報・通信業	24,900	5,451.75	135,748,575	6,598.00	164,290,200	2.09
日本	株式	信越化学工業	化学	12,200	9,628.85	117,471,970	12,885.00	157,197,000	2.00
日本	株式	住友金属鉱山	非鉄金属	44,900	3,265.12	146,603,888	3,237.00	145,341,300	1.85
日本	株式	マネックスグループ	証券・商品先物取引業	504,000	226.40	114,108,653	276.00	139,104,000	1.77
日本	株式	三井物産	卸売業	69,600	1,629.22	113,393,712	1,914.00	133,214,400	1.69
日本	株式	ライオン	化学	53,500	2,512.42	134,414,470	2,246.00	120,161,000	1.53
日本	株式	ダイキン工業	機械	6,000	13,592.65	81,555,900	19,965.00	119,790,000	1.52
日本	株式	日立建機	機械	31,900	3,023.43	96,447,417	3,720.00	118,668,000	1.51
日本	株式	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	258,100	523.59	135,138,579	442.50	114,209,250	1.45
日本	株式	オリンパス	精密機器	54,000	2,033.08	109,786,320	2,099.00	113,346,000	1.44
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	23,000	5,516.10	126,870,300	4,890.00	112,470,000	1.43
日本	株式	日本農薬	化学	221,700	516.04	114,406,068	499.00	110,628,300	1.41
日本	株式	オープンハウス	不動産業	29,200	3,588.66	104,788,872	3,765.00	109,938,000	1.40
日本	株式	BuySell Technologies	卸売業	35,600	2,720.27	96,841,951	2,975.00	105,910,000	1.35

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式	鉱業	0.31
	建設業	2.78
	食料品	3.02
	繊維製品	0.53
	化学	7.07
	医薬品	6.33
	鉄鋼	0.99
	非鉄金属	2.32
	機械	4.27

電気機器	14.24
輸送用機器	7.41
精密機器	1.91
その他製品	3.85
電気・ガス業	0.94
陸運業	2.97
空運業	0.53
倉庫・運輸関連業	0.69
情報・通信業	14.41
卸売業	6.50
小売業	1.53
銀行業	3.73
証券、商品先物取引業	3.02
保険業	1.43
不動産業	1.40
サービス業	5.17
小計	97.35
合計	97.35

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド

投資状況

令和 2年 8月31日現在
（単位：円）

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	アメリカ	15,769,441,093	33.63
	イタリア	6,885,745,168	14.69
	スペイン	5,138,301,215	10.96
	フランス	4,520,092,584	9.64
	イギリス	1,404,083,221	2.99
	オーストラリア	1,125,611,893	2.40
	ノルウェー	1,086,158,544	2.32

	ベルギー	1,054,214,246	2.25
	オランダ	930,988,881	1.99
	カナダ	870,990,718	1.86
	ドイツ	746,017,600	1.59
	メキシコ	643,778,534	1.37
	スウェーデン	642,633,449	1.37
	アイルランド	337,946,507	0.72
	マレーシア	308,471,962	0.66
	ポーランド	303,700,631	0.65
	イスラエル	177,090,704	0.38
	シンガポール	165,959,136	0.35
	小計	42,111,226,086	89.82
特殊債券	アメリカ	1,586,235,827	3.38
	オーストラリア	688,502,242	1.47
	イギリス	404,692,076	0.86
	小計	2,679,430,145	5.71
社債券	フランス	633,393,262	1.35
	アメリカ	581,221,921	1.24
	小計	1,214,615,183	2.59
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	880,428,226	1.88
純資産総額		46,885,699,640	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	2 T-NOTE 250815	27,000,000	10,846.79	2,928,635,290	11,429.91	3,086,076,713	2.000000	2025/8/15	6.58
アメリカ	国債証券	2.625 T-NOTE 290215	24,100,000	11,515.96	2,775,348,013	12,274.44	2,958,140,040	2.625000	2029/2/15	6.31
アメリカ	国債証券	2.75 T-NOTE 240215	23,500,000	10,995.36	2,583,911,856	11,470.24	2,695,508,015	2.750000	2024/2/15	5.75
フランス	国債証券	1.25 O.A.T 360525	16,000,000	14,327.96	2,292,473,913	14,649.97	2,343,995,408	1.250000	2036/5/25	5.00
イタリア	国債証券	1.75 ITALY GOVT 240701	17,500,000	13,197.82	2,309,619,138	13,254.70	2,319,572,673	1.750000	2024/7/1	4.95
イタリア	国債証券	1.85 ITALY GOVT 240515	14,000,000	13,336.20	1,867,068,882	13,299.84	1,861,978,313	1.850000	2024/5/15	3.97
アメリカ	国債証券	1.625 T-NOTE 260215	16,000,000	10,555.34	1,688,854,950	11,266.11	1,802,577,900	1.625000	2026/2/15	3.84
スペイン	国債証券	1.95 SPAIN GOVT 260430	12,000,000	14,040.09	1,684,811,159	14,030.70	1,683,684,188	1.950000	2026/4/30	3.59

スペイン	国債証券	2.35 SPAIN GOVT 330730	9,000,000	15,266.51	1,373,986,085	15,331.69	1,379,852,435	2.350000	2033/7/30	2.94
フランス	国債証券	0.75 O.A.T 281125	9,000,000	13,480.02	1,213,202,053	13,613.94	1,225,255,203	0.750000	2028/11/25	2.61
イタリア	国債証券	4.75 ITALY GOVT 280901	6,800,000	16,360.99	1,112,547,885	16,323.64	1,110,007,996	4.750000	2028/9/1	2.37
アメリカ	国債証券	3.875 T-BOND 400815	7,000,000	13,560.98	949,268,906	15,457.46	1,082,022,506	3.875000	2040/8/15	2.31
アメリカ	特殊債券	0.875 IBRD 300514	10,000,000	10,461.35	1,046,135,244	10,548.36	1,054,836,863	0.875000	2030/5/14	2.25
スペイン	国債証券	0.5 SPAIN GOVT 300430	7,500,000	12,557.03	941,777,820	12,777.04	958,278,693	0.500000	2030/4/30	2.04
アメリカ	国債証券	1.75 T-NOTE 230515	8,000,000	10,577.09	846,167,232	10,991.18	879,295,050	1.750000	2023/5/15	1.88
アメリカ	国債証券	4.75 T-BOND 410215	5,000,000	15,170.19	758,509,687	17,225.53	861,276,843	4.750000	2041/2/15	1.84
スペイン	国債証券	5.9 SPAIN GOVT 260730	5,000,000	17,330.33	866,516,523	17,015.85	850,792,936	5.900000	2026/7/30	1.81
アメリカ	国債証券	3.125 T-BOND 440815	6,000,000	12,368.55	742,113,037	14,166.80	850,008,262	3.125000	2044/8/15	1.81
カナダ	国債証券	2.25 CAN GOVT 290601	9,000,000	9,174.17	825,676,049	9,202.67	828,240,795	2.250000	2029/6/1	1.77
ベルギー	国債証券	0.9 BEL GOVT 290622	5,800,000	13,649.69	791,682,200	13,814.29	801,229,310	0.900000	2029/6/22	1.71
オランダ	国債証券	0.25 NETH GOVT 290715	6,000,000	13,203.33	792,200,015	13,246.84	794,810,945	0.250000	2029/7/15	1.70
オーストラリア	国債証券	2.25 AUST GOVT 280521	8,500,000	8,554.19	727,106,549	8,567.46	728,234,752	2.250000	2028/5/21	1.55
フランス	国債証券	2 O.A.T 480525	4,000,000	16,975.11	679,004,744	17,389.13	695,565,529	2.000000	2048/5/25	1.48
スウェーデン	国債証券	1 SWD GOVT 261112	49,000,000	1,319.63	646,622,521	1,311.49	642,633,449	1.000000	2026/11/12	1.37
アメリカ	国債証券	4.5 T-BOND 360215	4,000,000	14,199.72	567,989,175	15,864.91	634,596,450	4.500000	2036/2/15	1.35
フランス	社債券	2.25 BNP PARIBAS 210113	5,000,000	12,889.52	644,476,027	12,667.86	633,393,262	2.250000	2021/1/13	1.35
イギリス	国債証券	1.25 GILT 411022	4,000,000	15,953.34	638,133,938	15,145.32	605,812,889	1.250000	2041/10/22	1.29
イタリア	国債証券	2.45 ITALY GOVT 330901	4,000,000	13,445.74	537,829,664	14,269.35	570,774,071	2.450000	2033/9/1	1.22
アメリカ	国債証券	3.125 T-BOND 430215	4,000,000	12,239.04	489,561,825	14,111.65	564,466,200	3.125000	2043/2/15	1.20
イギリス	国債証券	4.25 GILT 551207	1,900,000	26,619.85	505,777,202	28,502.32	541,544,192	4.250000	2055/12/7	1.16

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	89.82
特殊債券	5.71
社債券	2.59
合計	98.12

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

投資状況

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
株式	アメリカ	3,253,027,292	71.86
	フランス	180,318,347	3.98
	ドイツ	129,450,192	2.86
	オランダ	122,038,834	2.70
	香港	111,995,456	2.47
	オーストラリア	95,590,376	2.11
	イギリス	95,208,038	2.10
	スイス	91,254,133	2.02
	カナダ	85,626,313	1.89
	フィンランド	59,974,419	1.32
	ニュージーランド	40,604,287	0.90
	スウェーデン	39,677,498	0.88
	デンマーク	27,461,500	0.61
	ベルギー	18,498,105	0.41
	スペイン	18,419,147	0.41
	小計	4,369,143,937	96.52
投資証券	アメリカ	80,005,242	1.77
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	77,577,390	1.71
純資産総額		4,526,726,569	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

令和 2年 8月31日現在

国／地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
------	----	-----	----	----	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	小売	719	187,716.75	134,968,344	358,413.64	257,699,413	5.69
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	6,891	16,934.51	116,695,728	24,117.95	166,196,846	3.67
アメリカ	株式	SALESFORCE.COM INC	ソフトウェア・サービス	5,747	17,091.49	98,224,846	28,563.09	164,152,113	3.63
アメリカ	株式	APPLE INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3,018	32,199.06	97,176,792	52,598.87	158,743,398	3.51
アメリカ	株式	TESLA INC	自動車・自動車部品	651	42,310.46	27,544,115	233,203.82	151,815,689	3.35
アメリカ	株式	COSTAR GROUP INC	商業・専門サービス	1,425	61,167.80	87,164,117	89,817.29	127,989,642	2.83
アメリカ	株式	ROPER TECHNOLOGIES INC	資本財	2,439	36,913.92	90,033,074	45,323.76	110,544,662	2.44
アメリカ	株式	ZOETIS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6,525	13,174.21	85,961,749	16,857.60	109,995,840	2.43
アメリカ	株式	PAYPAL HOLDINGS INC	ソフトウェア・サービス	5,036	11,342.00	57,118,332	21,544.01	108,495,648	2.40
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	613	140,580.79	86,176,027	173,255.03	106,205,338	2.35
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	ソフトウェア・サービス	4,163	19,506.35	81,204,937	22,727.20	94,613,357	2.09
アメリカ	株式	AUTODESK INC	ソフトウェア・サービス	3,501	18,946.88	66,333,057	26,065.01	91,253,601	2.02
アメリカ	株式	S&P GLOBAL INC	各種金融	2,344	28,573.63	66,976,593	38,649.20	90,593,745	2.00
アメリカ	株式	HEICO CORP-CLASS A	資本財	9,052	9,352.80	84,661,610	9,434.98	85,405,511	1.89
アメリカ	株式	DR HORTON INC	耐久消費財・アパレル	11,043	5,774.78	63,770,913	7,569.06	83,585,156	1.85
アメリカ	株式	INTUITIVE SURGICAL INC	ヘルスケア機器・サービス	1,080	61,071.92	65,957,678	76,597.77	82,725,596	1.83
アメリカ	株式	VULCAN MATERIALS CO	素材	6,236	14,894.26	92,880,653	12,947.69	80,741,797	1.78
アメリカ	投資証券	SBA COMMUNICATIONS CORP	—	2,480	24,810.17	61,529,228	32,260.17	80,005,242	1.77
アメリカ	株式	CADENCE DESIGN SYS INC	ソフトウェア・サービス	6,522	7,156.05	46,671,766	11,680.20	76,178,327	1.68
アメリカ	株式	VMWARE INC-CLASS A	ソフトウェア・サービス	4,871	15,694.42	76,447,548	15,392.04	74,974,639	1.66
オランダ	株式	ASML HOLDING NV	半導体・半導体製造装置	1,829	32,155.45	58,812,321	39,736.34	72,677,782	1.61
アメリカ	株式	FORTIVE CORP	資本財	9,287	7,865.93	73,050,926	7,673.36	71,262,576	1.57
アメリカ	株式	T-MOBILE US INC	電気通信サービス	5,817	7,924.12	46,094,639	12,249.15	71,253,327	1.57
カナダ	株式	SHOPIFY INC - CLASS A	ソフトウェア・サービス	600	48,460.66	29,076,400	109,607.49	65,764,496	1.45
アメリカ	株式	CHEVRON CORP	エネルギー	7,064	11,931.17	84,281,854	9,021.97	63,731,244	1.41
アメリカ	株式	CATERPILLAR INC	資本財	4,092	15,237.16	62,350,472	15,132.85	61,923,650	1.37
アメリカ	株式	SEMPRA ENERGY	公益事業	4,744	15,610.13	74,054,492	12,887.63	61,138,941	1.35
アメリカ	株式	PROGRESSIVE CORP	保険	6,154	7,603.83	46,793,977	9,870.12	60,740,748	1.34
アメリカ	株式	SHERWIN-WILLIAMS CO/THE	素材	843	60,669.90	51,144,734	71,213.87	60,033,299	1.33
オーストラリア	株式	BHP GROUP LTD	素材	19,390	3,049.62	59,132,228	2,924.07	56,697,814	1.25

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 2年 8月31日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式	エネルギー	2.52
	素材	4.91
	資本財	8.82
	商業・専門サービス	2.83
	自動車・自動車部品	4.44
	耐久消費財・アパレル	3.33
	消費者サービス	0.86
	メディア・娯楽	6.98
	小売	9.20
	食品・生活必需品小売り	1.02
	食品・飲料・タバコ	1.41
	家庭用品・パーソナル用品	1.28
	ヘルスケア機器・サービス	4.11
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	5.53
	銀行	3.26
	各種金融	2.00
	保険	2.97
	ソフトウェア・サービス	21.65
	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.31
	電気通信サービス	1.57
	公益事業	1.35
	半導体・半導体製造装置	2.16
小計		96.52
投資証券	—	1.77
合計		98.29

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

マネー・マーケット・マザーファンド

投資状況

令和 2年 8月31日現在
（単位：円）

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率（％）
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	1,166,390,469	100.00
純資産総額		1,166,390,469	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 3 0 銘柄

該当事項はありません。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

参考情報

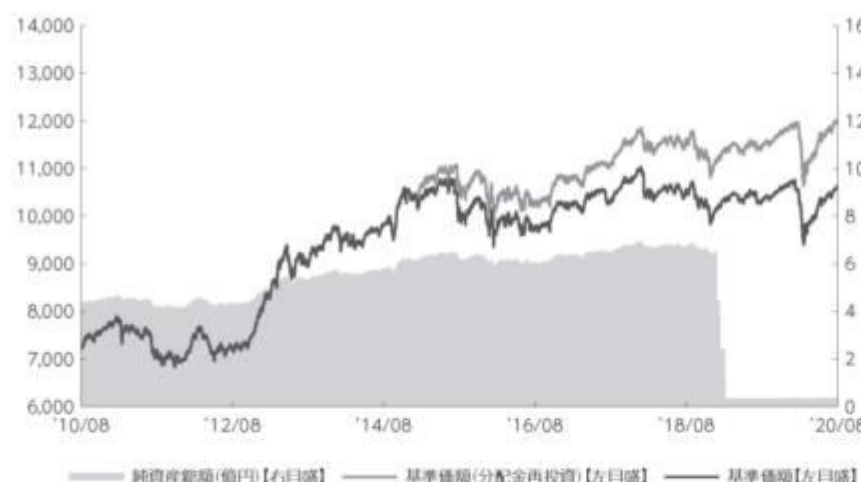


運用実績

2020年8月31日現在

三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030

■基準価額・純資産の推移 2010年8月31日～2020年8月31日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,593円
純資産総額	0.3億円

■分配の推移

2020年 8月	0円
2020年 2月	200円
2019年 8月	100円
2019年 2月	0円
2018年 8月	50円
2018年 2月	200円
設定来累計	1,500円

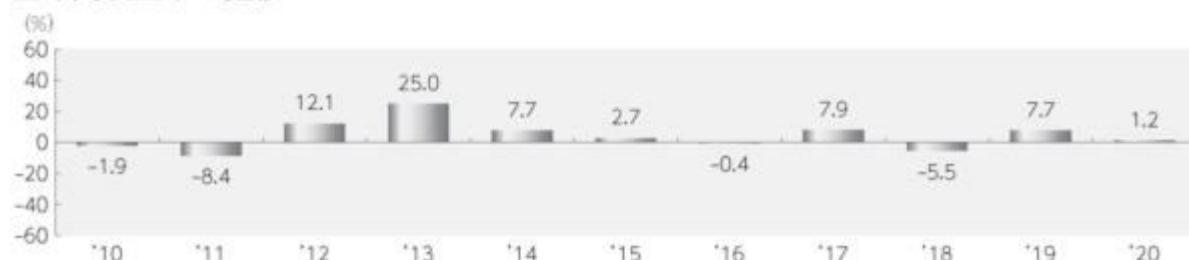
・分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種／種別	国・地域	比率
国内株式	18.3%	1 円	79.2%	JTOWER	株式	情報・通信業	日本	0.8%
国内債券	52.9%	2 アメリカドル	11.9%	AMAZON.COM INC	株式	小売	アメリカ	0.6%
外国株式	10.3%	3 ユーロ	5.8%	プロレド・パートナーズ	株式	サービス業	日本	0.6%
外国債券	10.2%	4 オーストラリアドル	0.6%	第一三共	株式	医薬品	日本	0.5%
		5 イギリスポンド	0.6%	イビデン	株式	電気機器	日本	0.5%
		6 カナダドル	0.4%	第354回利付国債(10年)	債券	国債	日本	2.2%
		7 ノルウェークローネ	0.3%	第166回利付国債(20年)	債券	国債	日本	1.3%
		8 香港ドル	0.3%	第142回利付国債(5年)	債券	国債	日本	1.3%
		9 スウェーデンクローネ	0.2%	第146回利付国債(20年)	債券	国債	日本	1.0%
		10 スイスフラン	0.2%	第3回マラヤン・バンキング(2019)	債券	社債	日本	1.0%
コールローン他 (負債控除後)	8.3%							
合計	100.0%							

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

■年間収益率の推移

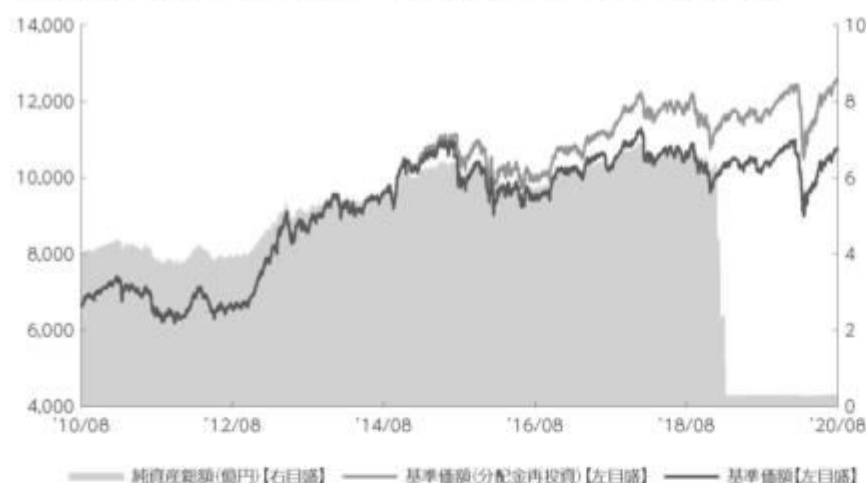


- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2020年は年初から8月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2040

■基準価額・純資産の推移 2010年8月31日～2020年8月31日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,751円
純資産総額	0.3億円

■分配の推移

2020年 8月	0円
2020年 2月	350円
2019年 8月	100円
2019年 2月	0円
2018年 8月	100円
2018年 2月	250円
設定来累計	1,650円

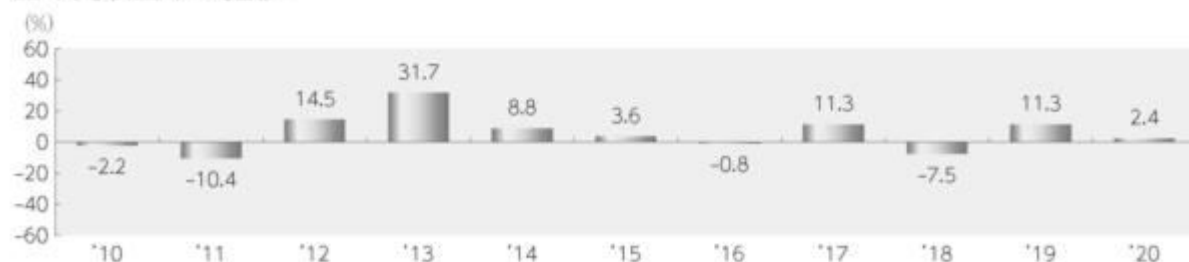
●分配金は1万円当たり、税引前

■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種／種別	国・地域	比率
国内株式	29.2%	1 円	74.1%	JTOWER	株式	情報・通信業	日本	1.3%
国内債券	39.6%	2 アメリカドル	15.8%	プロレド・パートナーズ	株式	サービス業	日本	0.9%
外国株式	15.4%	3 ユーロ	6.3%	AMAZON.COM INC	株式	小売	アメリカ	0.9%
外国債券	10.2%	4 オーストラリアドル	0.7%	第一三共	株式	医薬品	日本	0.8%
		5 イギリスポンド	0.7%	イビデン	株式	電気機器	日本	0.8%
		6 カナダドル	0.5%	第354回利付国債(10年)	債券	国債	日本	1.7%
		7 香港ドル	0.4%	第166回利付国債(20年)	債券	国債	日本	1.0%
		8 スイスフラン	0.3%	第142回利付国債(5年)	債券	国債	日本	1.0%
コールローン他 (負債控除後)	5.6%	9 スウェーデンクローネ	0.3%	第146回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.7%
合計	100.0%	10 ノルウェークローネ	0.3%	第3回マラヤン・バンキング(2019)	債券	社債	日本	0.7%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

■年間収益率の推移



- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2020年は年初から8月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

申込みの受付

原則として、いつでも申込みができます。

取得申込者の受益権は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

申込単位

販売会社が定める単位

申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額

申込価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

申込単位・申込価額の照会方法

申込単位および申込価額は、販売会社にてご確認いただけます。

また、下記においてもご照会いただけます。

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

なお、申込価額は委託会社のホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

申込手数料

申込価額（発行価格）×2.2%（税抜 2%）を上限として販売会社が定める手数料率

再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

スイッチングの際には申込手数料はかかりません。

申込方法

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込みを行うものとします。

取得申込者は、申込金額および申込手数料（税込）を販売会社が定める日までに支払うものとします。

申込受付時間

取得の申込みは、申込期間において、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。取得申込みが行われ、かつ当該取得申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての申込みに関しては販売会社にご確認ください。

取得申込みの受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受付を取り消すことがあります。

申込（販売）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

2【換金（解約）手続等】

解約の受付

原則として、いつでも解約の請求ができます。

受益者の解約請求に係る受益権の口数の減少は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

解約単位

1口単位

解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額

信託財産留保額
ありません。

解約価額の算出頻度
原則として、委託会社の営業日に計算されます。

解約価額の照会方法
解約価額は、販売会社にてご確認いただけます。
なお、下記においてもご照会いただけます。
三菱ＵＦＪ国際投信株式会社
お客様専用フリーダイヤル 0120-151034
（受付時間：営業日の9:00～17:00）
ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

支払開始日
解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から販売会社において支払います。

解約請求受付時間
解約の請求は、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。解約請求が行われ、かつ当該換金請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての請求に関しては販売会社にご確認ください。

解約請求受付の中止および取消し
委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた解約請求を取り消すことがあります。その場合には、受益者は、当該受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとします。
また、市況動向等により、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

換金（解約）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

3【資産管理等の概要】

（１）【資産の評価】

基準価額の算出方法
$$\text{基準価額} = \text{信託財産の純資産総額} \div \text{受益権総口数}$$

なお、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（資産の評価方法）

・株式／上場投資信託証券／不動産投資信託証券

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場（外国で取引されているものについては、原則として、金融商品取引所における計算時に知りうる直近の日の最終相場）で評価します。

・転換社債／転換社債型新株予約権付社債

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額（外国で取引されているものについては、原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額）で評価します。

- ・公社債等

原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。

残存期間１年以内の公社債等については、一部償却原価法による評価を適用することができます。

- ・マザーファンド

計算日における基準価額で評価します。

- ・投資信託証券（上場投資信託証券／不動産投資信託証券を除く。）

原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- ・外貨建資産

原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円換算します。

- ・外国為替予約取引

原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

- ・市場デリバティブ取引

原則として、金融商品取引所が発表する計算日の清算値段等で評価します。

基準価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

基準価額の照会方法

基準価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

（２）【保管】

該当事項はありません。

（３）【信託期間】

無期限（2000年2月8日設定）

ただし、後記「ファンドの償還条件等」の規定によりファンドを償還させることがあります。

（４）【計算期間】

毎年２月８日から８月７日および８月８日から翌年２月７日まで

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

なお、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間の終了日とします。

（５）【その他】

ファンドの償還条件等

委託会社は、以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還させることができます。（任意償還）

- ・各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合
- ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき

このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録取消・解散・業務廃止のときは、原則として、ファンドを償還させます。

委託会社は、ファンドを償還しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

信託約款の変更

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができます。委託会社は、信託約款を変更しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きにしたがいます。

ファンドの償還等に関する開示方法

委託会社は、ファンドの任意償還または信託約款の変更のうち重大な内容の変更を行おうとする場合、あらかじめその旨およびその内容を公告し、かつ、原則としてこれらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。この公告および書面には、原則として、受益者で異議のあるものは一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。

異議申立ておよび反対者の買取請求権

受益者は、委託会社がファンドの任意償還または信託約款について重大な内容の変更を行おうとする場合、原則として、一定の期間（１ヵ月以上）内に委託会社に対して異議を述べるすることができます。異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。なお、一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の２分の１を超えるときは、ファンドの償還または信託約款の変更を行いません。その場合、償還しない旨または信託約款を変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、原則として、これらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。

関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結された「投資信託受益権の取扱に関する契約」の契約期間は、契約締結日から１年とします。ただし双方から契約満了日の３ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、さらに１年間延長するものとし、その後も同様とします。

運用報告書

委託会社は、毎計算期間の末日および償還時に、交付運用報告書を作成し、原則として受益者に交付します。なお、信託約款の内容に委託会社が重要と判断した変更、ファンドの任意償還等があった場合は、その内容を交付運用報告書に記載します。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承

継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。

信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について再信託受託会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.am.mufg.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

（１）収益分配金に対する受領権

受益者は、収益分配金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

収益分配金は、税金を差引いた後、「累積投資契約」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

（２）償還金に対する受領権

受益者は、償還金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日後１ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して５営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から１０年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

（３）換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、換金（解約）請求する権利を有します。

くわしくは「第２ 管理及び運営 ２ 換金（解約）手続等」を参照してください。

第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期（令和2年2月8日から令和2年8月7日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０】

(１) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	1,958,323	1,330,197
親投資信託受益証券	34,001,053	35,048,424
流動資産合計	35,959,376	36,378,621
資産合計	35,959,376	36,378,621
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	662,739	-
未払受託者報酬	15,055	15,112
未払委託者報酬	248,454	192,682
その他未払費用	602	598
流動負債合計	926,850	208,392
負債合計	926,850	208,392
純資産の部		
元本等		
元本	33,136,964	34,446,342
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 ()	1,895,562	1,723,887
(分配準備積立金)	2,237,381	2,250,025
元本等合計	35,032,526	36,170,229
純資産合計	35,032,526	36,170,229
負債純資産合計	35,959,376	36,378,621

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
営業収益		
受取利息	4	3
有価証券売買等損益	1,877,736	2,629
その他収益	34,540	996
営業収益合計	1,912,280	1,630
営業費用		
支払利息	183	140
受託者報酬	15,055	15,112
委託者報酬	248,454	192,682
その他費用	602	598
営業費用合計	264,294	208,532
営業利益又は営業損失（ ）	1,647,986	210,162
経常利益又は経常損失（ ）	1,647,986	210,162
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,647,986	210,162
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	297	2,586
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	856,798	1,895,562
剰余金増加額又は欠損金減少額	59,009	46,537
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	59,009	46,537
剰余金減少額又は欠損金増加額	5,195	10,636
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	5,195	10,636
分配金	662,739	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,895,562	1,723,887

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

１．有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
-------------------	---

（貸借対照表に関する注記）

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
１．期首元本額	32,076,092円	33,136,964円
期中追加設定元本額	1,255,378円	1,498,808円
期中一部解約元本額	194,506円	189,430円
２．受益権の総数	33,136,964口	34,446,342口

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日																																																												
1. 分配金の計算過程	1. 分配金の計算過程																																																												
<table><tr><td>項目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>210,103円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>966,845円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>486,118円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>1,723,172円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>3,386,238円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>33,136,964口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>1,021円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>200円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>662,739円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	210,103円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	966,845円	収益調整金額	C	486,118円	分配準備積立金額	D	1,723,172円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	3,386,238円	当ファンドの期末残存口数	F	33,136,964口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,021円	1万口当たり分配金額	H	200円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	662,739円	<table><tr><td>項目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>24,967円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>606,888円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>2,225,058円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>2,856,913円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>34,446,342口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>829円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>—円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	24,967円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	606,888円	分配準備積立金額	D	2,225,058円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,856,913円	当ファンドの期末残存口数	F	34,446,342口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	829円	1万口当たり分配金額	H	—円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	—円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	210,103円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	966,845円																																																											
収益調整金額	C	486,118円																																																											
分配準備積立金額	D	1,723,172円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	3,386,238円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	33,136,964口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,021円																																																											
1万口当たり分配金額	H	200円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	662,739円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	24,967円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	606,888円																																																											
分配準備積立金額	D	2,225,058円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,856,913円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	34,446,342口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	829円																																																											
1万口当たり分配金額	H	—円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	—円																																																											

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左

区分	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	1,802,384	422,182
合計	1,802,384	422,182

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.0572円	1.0500円
(1万口当たり純資産額)	(10,572円)	(10,500円)

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表
(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益 証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド	4,896,618	7,046,722	
	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド	13,831,479	20,303,228	
	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド	1,440,962	3,816,676	
	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド	1,191,284	3,881,798	
合計		21,360,343	35,048,424	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,012,357	1,180,525
親投資信託受益証券	27,981,432	29,014,458
流動資産合計	29,993,789	30,194,983
資産合計	29,993,789	30,194,983
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	946,761	-
未払受託者報酬	12,653	12,337
未払委託者報酬	224,558	203,499
その他未払費用	547	500
流動負債合計	1,184,519	216,336
負債合計	1,184,519	216,336
純資産の部		
元本等		
元本	27,050,324	28,334,637
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,758,946	1,644,010
（分配準備積立金）	2,248,246	2,248,832
元本等合計	28,809,270	29,978,647
純資産合計	28,809,270	29,978,647
負債純資産合計	29,993,789	30,194,983

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
営業収益		
受取利息	2	3
有価証券売買等損益	2,458,488	53,026
その他収益	34,072	1,003
営業収益合計	2,492,562	54,032
営業費用		
支払利息	135	101
受託者報酬	12,653	12,337
委託者報酬	224,558	203,499
その他費用	547	500
営業費用合計	237,893	216,437
営業利益又は営業損失（ ）	2,254,669	162,405
経常利益又は経常損失（ ）	2,254,669	162,405
当期純利益又は当期純損失（ ）	2,254,669	162,405
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	28,241	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	471,533	1,758,946
剰余金増加額又は欠損金減少額	26,880	47,469
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	26,880	47,469
剰余金減少額又は欠損金増加額	19,134	-
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	19,134	-
分配金	946,761	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,758,946	1,644,010

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

１．有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
-------------------	---

（貸借対照表に関する注記）

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
１．期首元本額	27,538,311円	27,050,324円
期中追加設定元本額	625,479円	1,284,313円
期中一部解約元本額	1,113,466円	—円
２．受益権の総数	27,050,324口	28,334,637口

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日																																																												
1. 分配金の計算過程	1. 分配金の計算過程																																																												
<table><tr><td>項目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>208,601円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>1,161,397円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>347,818円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>1,825,009円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>3,542,825円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>27,050,324口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>1,309円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>350円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>946,761円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	208,601円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,161,397円	収益調整金額	C	347,818円	分配準備積立金額	D	1,825,009円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	3,542,825円	当ファンドの期末残存口数	F	27,050,324口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,309円	1万口当たり分配金額	H	350円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	946,761円	<table><tr><td>項目</td><td></td><td></td></tr><tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>586円</td></tr><tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>471,642円</td></tr><tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>2,248,246円</td></tr><tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>2,720,474円</td></tr><tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>28,334,637口</td></tr><tr><td>1万口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F*10,000</td><td>960円</td></tr><tr><td>1万口当たり分配金額</td><td>H</td><td>—円</td></tr><tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F*H/10,000</td><td>—円</td></tr></table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	586円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	収益調整金額	C	471,642円	分配準備積立金額	D	2,248,246円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,720,474円	当ファンドの期末残存口数	F	28,334,637口	1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	960円	1万口当たり分配金額	H	—円	収益分配金金額	I=F*H/10,000	—円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	208,601円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	1,161,397円																																																											
収益調整金額	C	347,818円																																																											
分配準備積立金額	D	1,825,009円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	3,542,825円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	27,050,324口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,309円																																																											
1万口当たり分配金額	H	350円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	946,761円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	586円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円																																																											
収益調整金額	C	471,642円																																																											
分配準備積立金額	D	2,248,246円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,720,474円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	28,334,637口																																																											
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	960円																																																											
1万口当たり分配金額	H	—円																																																											
収益分配金金額	I=F*H/10,000	—円																																																											

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	第40期 自 令和 1年 8月 8日 至 令和 2年 2月 7日	第41期 自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左

区分	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	2,315,951	359,282
合計	2,315,951	359,282

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	第40期 [令和 2年 2月 7日現在]	第41期 [令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.0650円	1.0580円
(1万口当たり純資産額)	(10,650円)	(10,580円)

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表
(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド	6,122,393	8,810,735	
	三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド	8,360,411	12,272,247	
	三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド	1,782,555	4,721,453	
	三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド	985,123	3,210,023	
合計		17,250,482	29,014,458	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

[令和 2年 8月 7日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	336,337,922
国債証券	6,823,561,500
特殊債券	100,085,000
社債券	3,996,062,000
未収利息	24,429,646
前払費用	1,829,944
流動資産合計	11,282,306,012
資産合計	11,282,306,012
負債の部	

[令和 2年 8月 7日現在]

流動負債	
未払解約金	12,911,398
未払利息	242
流動負債合計	12,911,640
負債合計	12,911,640
純資産の部	
元本等	
元本	7,677,024,211
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	3,592,370,161
元本等合計	11,269,394,372
純資産合計	11,269,394,372
負債純資産合計	11,282,306,012

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
--------------------	---

（貸借対照表に関する注記）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1. 期首	令和 2年 2月 8日
期首元本額	7,173,785,043円
期中追加設定元本額	1,521,005,761円
期中一部解約元本額	1,017,766,593円
元本の内訳	
国内債券通貨プラス	1,071,963,725円
国内債券セレクション（ラップ向け）	2,393,188,993円
三菱ＵＦＪ アドバンスト・バランス（安定型）	137,116,555円
三菱ＵＦＪ アドバンスト・バランス（安定成長型）	147,758,992円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式２０型	814,230,308円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式４０型	854,109,727円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ２５	433,638,400円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０	491,500,779円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ７５	143,531,555円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	240,103,286円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ２５ＶＡ（適格機関投資家限定）	32,363,419円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	134,055,344円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	110,871,506円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	49,043,736円

	[令和 2年 8月 7日現在]
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	21,901,780円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	36,436,716円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	13,831,479円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	8,360,411円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定型）	82,388,576円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	115,215,581円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（成長型）	51,058,857円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（積極型）	47,501,327円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	151,409,037円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	95,444,122円
合計	7,677,024,211円
２．受益権の総数	7,677,024,211口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
２．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。
３．金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

２ 金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
１．貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
２．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 （３）上記以外の金融商品

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[令和 2年 8月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	115,827,100
特殊債券	50,000
社債券	13,166,000
合計	128,943,100

(注) 当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.4679円
(1万口当たり純資産額)	(14,679円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	第１４２回利付国債（５年）	270,000,000	272,662,200	
	第５回利付国債（４０年）	60,000,000	85,144,200	
	第７回利付国債（４０年）	60,000,000	80,947,800	
	第１０回利付国債（４０年）	80,000,000	88,937,600	
	第１１回利付国債（４０年）	60,000,000	64,774,800	
	第３４８回利付国債（１０年）	10,000,000	10,154,100	
	第３５０回利付国債（１０年）	100,000,000	101,532,000	
	第３５１回利付国債（１０年）	90,000,000	91,352,700	
	第３５２回利付国債（１０年）	50,000,000	50,734,500	
	第３５４回利付国債（１０年）	460,000,000	466,366,400	
	第３５６回利付国債（１０年）	80,000,000	80,986,400	
	第３５７回利付国債（１０年）	80,000,000	80,900,000	
	第２３回利付国債（３０年）	40,000,000	53,809,600	
	第２６回利付国債（３０年）	50,000,000	67,085,500	
	第２８回利付国債（３０年）	20,000,000	27,449,600	
	第３０回利付国債（３０年）	40,000,000	54,002,000	
	第３１回利付国債（３０年）	30,000,000	40,156,500	
	第３２回利付国債（３０年）	50,000,000	68,200,500	
	第３３回利付国債（３０年）	50,000,000	65,622,500	
	第３４回利付国債（３０年）	60,000,000	81,411,600	
	第３６回利付国債（３０年）	70,000,000	92,919,400	
	第３７回利付国債（３０年）	40,000,000	52,454,000	
	第３８回利付国債（３０年）	20,000,000	25,885,000	
	第３９回利付国債（３０年）	50,000,000	65,914,000	
	第４２回利付国債（３０年）	90,000,000	115,235,100	
	第４４回利付国債（３０年）	30,000,000	38,490,900	
	第４５回利付国債（３０年）	20,000,000	24,773,000	
	第４６回利付国債（３０年）	90,000,000	111,675,600	
	第４７回利付国債（３０年）	20,000,000	25,311,800	
	第４９回利付国債（３０年）	40,000,000	48,816,000	
	第５０回利付国債（３０年）	70,000,000	75,365,500	
	第５３回利付国債（３０年）	30,000,000	30,770,100	
	第５４回利付国債（３０年）	100,000,000	107,422,000	
	第５８回利付国債（３０年）	130,000,000	139,460,100	
	第６０回利付国債（３０年）	110,000,000	120,843,800	
	第６１回利付国債（３０年）	60,000,000	62,746,200	

第 6 7 回利付国債（ 3 0 年）	10,000,000	10,141,200	
第 9 9 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	116,352,000	
第 1 0 0 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	82,306,700	
第 1 0 3 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,433,000	
第 1 0 5 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	58,873,000	
第 1 0 8 回利付国債（ 2 0 年）	20,000,000	23,302,800	
第 1 1 0 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,316,000	
第 1 1 1 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	83,974,800	
第 1 1 3 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,755,500	
第 1 1 4 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,939,000	
第 1 1 6 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	84,873,600	
第 1 1 8 回利付国債（ 2 0 年）	60,000,000	71,793,600	
第 1 2 1 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,483,500	
第 1 2 3 回利付国債（ 2 0 年）	80,000,000	97,050,400	
第 1 2 5 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	122,746,000	
第 1 2 8 回利付国債（ 2 0 年）	120,000,000	143,817,600	
第 1 3 0 回利付国債（ 2 0 年）	50,000,000	59,535,500	
第 1 3 2 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	82,764,500	
第 1 3 6 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	82,140,100	
第 1 3 7 回利付国債（ 2 0 年）	80,000,000	94,999,200	
第 1 4 0 回利付国債（ 2 0 年）	60,000,000	71,400,600	
第 1 4 1 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	119,241,000	
第 1 4 3 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	118,231,000	
第 1 4 5 回利付国債（ 2 0 年）	90,000,000	107,732,700	
第 1 4 6 回利付国債（ 2 0 年）	170,000,000	203,875,900	
第 1 4 7 回利付国債（ 2 0 年）	70,000,000	83,183,800	
第 1 4 8 回利付国債（ 2 0 年）	40,000,000	47,074,400	
第 1 4 9 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	117,846,000	
第 1 5 0 回利付国債（ 2 0 年）	120,000,000	139,951,200	
第 1 5 2 回利付国債（ 2 0 年）	130,000,000	148,237,700	
第 1 5 3 回利付国債（ 2 0 年）	80,000,000	92,430,400	
第 1 5 4 回利付国債（ 2 0 年）	100,000,000	114,164,000	
第 1 5 5 回利付国債（ 2 0 年）	80,000,000	89,005,600	
第 1 5 8 回利付国債（ 2 0 年）	90,000,000	93,123,000	
第 1 5 9 回利付国債（ 2 0 年）	120,000,000	126,006,000	
第 1 6 0 回利付国債（ 2 0 年）	40,000,000	42,631,600	
第 1 6 2 回利付国債（ 2 0 年）	180,000,000	188,787,600	
第 1 6 4 回利付国債（ 2 0 年）	40,000,000	41,199,600	
第 1 6 6 回利付国債（ 2 0 年）	260,000,000	276,437,200	
第 1 7 2 回利付国債（ 2 0 年）	20,000,000	20,091,200	
国債証券 合計	5,970,000,000	6,823,561,500	
特殊債券			
第 2 2 9 号商工債券（ 3 年）	100,000,000	100,085,000	

特殊債券 合計		100,000,000	100,085,000	
社債券	第２３回フランス相互信用連合銀行	100,000,000	99,131,000	
	第３回香港上海銀行	100,000,000	99,023,000	
	第３回マラヤン・バンキング（２０１９）	200,000,000	199,948,000	
	第６回マラヤン・バンキング	200,000,000	198,808,000	
	第１回パークレイズ・ピーエルシー期限前償還条項付	100,000,000	100,413,000	
	第１７回シティグループ	100,000,000	100,183,000	
	第３回ソシエテ ジェネラル円貨社債（２０１８）	100,000,000	100,295,000	
	UBS GROUP FUNDING（SWITZERLAND）	100,000,000	100,093,000	
	第１６回Ｚホールディングス	100,000,000	100,099,000	
	第５０回日本電気	100,000,000	100,073,000	
	第１５回パナソニック	100,000,000	100,094,000	
	第３４回ソニー	100,000,000	99,197,000	
	第４３回ＩＨＩ	100,000,000	99,363,000	
	第１回日本生命２０１７基金	100,000,000	100,151,000	
	第１回明治安田生命２０１８基金	100,000,000	100,137,000	
	第１回日本生命２０１９基金	100,000,000	99,924,000	
	第１回明治安田生命２０１９基金	100,000,000	100,003,000	
	第１回楽天カード	100,000,000	99,614,000	
	第３５回丸井グループ	100,000,000	98,911,000	
	第１３回三井住友トラスト・ホールディングス期限前償還条項付	100,000,000	99,605,000	
	第８回みずほコーポレート銀行（劣後特約付）	100,000,000	101,788,000	
	第２８回三菱東京ＵＦＪ銀行（劣後特約付）	200,000,000	201,304,000	
	第１８回みずほフィナンシャルグループ期限前償還条項付	100,000,000	99,662,000	
	第１４回ＳＢＩホールディングス	100,000,000	99,650,000	
	第１９回ＳＢＩホールディングス	100,000,000	99,335,000	
	第５回イオンフィナンシャルサービス	100,000,000	99,946,000	
	第７回イオンフィナンシャルサービス	100,000,000	99,596,000	
	第７５回アコム	100,000,000	99,983,000	
	第７９回アコム	100,000,000	98,825,000	
	第７４回三菱ＵＦＪリース	100,000,000	99,827,000	
	第１回野村ホールディングス	100,000,000	99,738,000	
	第２回野村ホールディングス	100,000,000	99,523,000	
	第２回ソフトバンク	100,000,000	99,619,000	
	第２回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,576,000	
	第１２回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,453,000	
	第２７回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,951,000	
	第３８回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,221,000	
社債券 合計		4,000,000,000	3,996,062,000	
合計		10,070,000,000	10,919,708,500	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)	
[令和 2年 8月 7日現在]	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	112,913,388
株式	7,605,252,800
未収入金	120,832,327
未収配当金	4,584,900
流動資産合計	7,843,583,415
資産合計	7,843,583,415
負債の部	
流動負債	
未払金	116,452,373
未払解約金	17,295,297
未払利息	81
流動負債合計	133,747,751
負債合計	133,747,751
純資産の部	
元本等	
元本	5,357,506,473
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	2,352,329,191
元本等合計	7,709,835,664
純資産合計	7,709,835,664
負債純資産合計	7,843,583,415

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
--------------------	---

(貸借対照表に関する注記)

	[令和 2年 8月 7日現在]
1. 期首	令和 2年 2月 8日
期首元本額	5,441,187,256円
期中追加設定元本額	1,280,659,590円
期中一部解約元本額	1,364,340,373円
元本の内訳	
三菱ＵＦＪ 日本株式オープン	998,022,047円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式２０型	488,410,488円
三菱ＵＦＪ 日本バランスオープン 株式４０型	1,333,511,827円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ２５	121,736,880円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０	466,161,217円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ７５	488,200,811円
三菱ＵＦＪ 日本株式オープンＶＡ（適格機関投資家限定）	321,632,575円
三菱ＵＦＪ ライフプラン ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	227,742,324円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ２５ＶＡ（適格機関投資家限定）	27,923,485円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド ５０ＶＡ（適格機関投資家限定）	352,562,281円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	39,166,461円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	35,687,178円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	24,538,197円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	55,454,020円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	4,896,618円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	6,122,393円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定型）	29,156,567円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	84,054,635円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（成長型）	57,191,418円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（積極型）	72,354,699円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	53,577,764円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	69,402,588円
合計	5,357,506,473円
2. 受益権の総数	5,357,506,473口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記) に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[令和 2年 8月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	519,664,771
合計	519,664,771

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	1.4391円
(1万口当たり純資産額)	(14,391円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表
(1) 株式

（単位：円）

	銘 柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
1605	国際石油開発帝石	37,500	666.00	24,975,000	
1801	大成建設	24,800	3,400.00	84,320,000	
1824	前田建設工業	36,400	728.00	26,499,200	
1951	協和エクシオ	35,300	2,554.00	90,156,200	
1963	日揮ホールディングス	18,200	1,162.00	21,148,400	
2270	雪印メグミルク	30,500	2,395.00	73,047,500	
2871	ニチレイ	24,500	2,976.00	72,912,000	
2875	東洋水産	18,000	6,340.00	114,120,000	
3101	東洋紡	27,900	1,519.00	42,380,100	
3407	旭化成	67,600	876.80	59,271,680	
4063	信越化学工業	12,400	12,280.00	152,272,000	
4912	ライオン	54,500	2,324.00	126,658,000	
4927	ポーラ・オルビスホールディングス	30,500	1,750.00	53,375,000	
4985	アース製薬	6,800	7,320.00	49,776,000	
4997	日本農薬	234,000	495.00	115,830,000	
4519	中外製薬	44,000	4,824.00	212,256,000	
4523	エーザイ	8,400	8,626.00	72,458,400	
4568	第一三共	23,400	9,324.00	218,181,600	
5486	日立金属	50,000	1,420.00	71,000,000	
5713	住友金属鉱山	45,800	3,374.00	154,529,200	
5801	古河電気工業	14,800	2,350.00	34,780,000	
6305	日立建機	32,500	3,165.00	102,862,500	

6367	ダイキン工業	6,100	19,040.00	116,144,000	
6586	マキタ	20,400	4,635.00	94,554,000	
4062	イビデン	68,300	3,370.00	230,171,000	
6594	日本電産	6,400	8,612.00	55,116,800	
6701	日本電気	43,100	5,380.00	231,878,000	
6702	富士通	17,200	13,870.00	238,564,000	
6758	ソニー	24,900	8,525.00	212,272,500	
6945	富士通フロンテック	65,700	1,544.00	101,440,800	
6967	新光電気工業	53,500	1,612.00	86,242,000	
7752	リコー	41,600	738.00	30,700,800	
8035	東京エレクトロン	8,600	27,940.00	240,284,000	
7102	日本車輛製造	8,400	2,385.00	20,034,000	
7105	三菱ロジスネクスト	46,400	887.00	41,156,800	
7203	トヨタ自動車	23,300	6,878.00	160,257,400	
7205	日野自動車	106,800	680.00	72,624,000	
7267	本田技研工業	76,400	2,548.00	194,667,200	
7282	豊田合成	31,500	2,141.00	67,441,500	
7733	オリンパス	55,000	2,010.00	110,550,000	
8050	セイコーホールディングス	25,300	1,436.00	36,330,800	
7862	トッパン・フォームズ	104,500	978.00	102,201,000	
7974	任天堂	3,700	50,460.00	186,702,000	
9502	中部電力	57,900	1,237.00	71,622,300	
9065	山九	15,200	4,010.00	60,952,000	
9143	S Gホールディングス	35,100	4,820.00	169,182,000	
9201	日本航空	20,000	1,862.00	37,240,000	
9303	住友倉庫	42,200	1,265.00	53,383,000	
4348	インフォコム	25,100	3,480.00	87,348,000	
4441	トビラシシステムズ	83,900	1,899.00	159,326,100	
4485	J T O W E R	40,300	5,520.00	222,456,000	
4768	大塚商会	17,500	5,470.00	95,725,000	
4812	電通国際情報サービス	14,300	5,540.00	79,222,000	
9433	K D D I	45,300	3,218.00	145,775,400	
9684	スクウェア・エニックス・ホールディングス	20,700	6,890.00	142,623,000	
9984	ソフトバンクグループ	25,400	6,521.00	165,633,400	
3132	マクニカ・富士エレホールディングス	15,300	1,621.00	24,801,300	
8001	伊藤忠商事	62,900	2,457.00	154,545,300	
8031	三井物産	71,000	1,660.00	117,860,000	
3186	ネクステージ	37,800	982.00	37,119,600	
3563	スシローグローバルホールディングス	25,300	2,328.00	58,898,400	
8306	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	226,800	414.10	93,917,880	
8308	りそなホールディングス	108,300	355.80	38,533,140	
8316	三井住友フィナンシャルグループ	32,200	2,902.00	93,444,400	

8473	S B Iホールディングス	41,600	2,235.00	92,976,000	
8698	マネックスグループ	504,000	236.00	118,944,000	
8766	東京海上ホールディングス	23,400	4,684.00	109,605,600	
3288	オープンハウス	29,700	3,180.00	94,446,000	
4751	サイバーエージェント	11,200	5,930.00	66,416,000	
6098	リクルートホールディングス	26,200	3,589.00	94,031,800	
7034	プロレド・パートナーズ	43,400	5,070.00	220,038,000	
9616	共立メンテナンス	6,100	3,030.00	18,483,000	
9792	ニチイ学館	47,100	1,668.00	78,562,800	
合 計		3,470,100		7,605,252,800	

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

[令和 2年 8月 7日現在]

資産の部	
流動資産	
預金	125,318,361
コール・ローン	127,431,713
国債証券	42,499,628,765
特殊債券	2,693,521,703
社債券	1,217,743,495
未収入金	140,689,021
未収利息	271,403,549
前払費用	42,629,795
流動資産合計	47,118,366,402
資産合計	47,118,366,402
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	139,000
未払金	61,601,277
未払解約金	10,622,755
未払利息	91
流動負債合計	72,363,123

[令和 2年 8月 7日現在]

負債合計	72,363,123
純資産の部	
元本等	
元本	14,437,717,974
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	32,608,285,305
元本等合計	47,046,003,279
純資産合計	47,046,003,279
負債純資産合計	47,118,366,402

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1. 期首	令和 2年 2月 8日
期首元本額	15,255,137,633円
期中追加設定元本額	771,158,208円
期中一部解約元本額	1,588,577,867円
元本の内訳	
三菱ＵＦＪ バランスインカムオープン（毎月決算型）	3,866,315,774円
三菱ＵＦＪ ＤＣ金利連動アロケーション型バランスファンド	494,161,867円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 25	28,393,494円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50	55,640,919円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 75	16,040,258円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープン	4,195,789,565円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープン（3ヵ月決算型）	3,636,501,281円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50VA（適格機関投資家限定）	27,171,020円
三菱ＵＦＪ 海外債券オープンVA（適格機関投資家限定）	71,947,422円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 25VA（適格機関投資家限定）	59,198,037円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 50VA（適格機関投資家限定）	244,501,633円
三菱ＵＦＪ国際 海外債券オープン（適格機関投資家限定）	1,569,388,865円
三菱ＵＦＪ グローバルバランス（積極型）	27,604,561円

	[令和 2年 8月 7日現在]
三菱ＵＦＪ グローバルバランス（安定型）	22,371,306円
三菱ＵＦＪ グローバルバランスＶＡ	2,090,977円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	9,604,003円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	5,752,471円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	3,317,679円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	3,459,647円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０	1,191,284円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	985,123円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定型）	7,110,622円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	13,421,621円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（成長型）	7,825,501円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（積極型）	4,581,514円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	13,167,971円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	11,220,030円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>グローバルバランス ２０型	7,834,928円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>グローバルバランス ４０型	14,721,750円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>グローバルバランス ６０型	16,406,851円
合計	14,437,717,974円
２． 受益権の総数	14,437,717,974口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
２．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。 また、デリバティブ取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
3.金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[令和 2年 8月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
国債証券	1,916,260,486
特殊債券	51,256,886
社債券	1,990,241
合計	1,965,527,131

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

[令和 2年 8月 7日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 ユーロ	62,541,000	—	62,680,000	139,000
合計		62,541,000	—	62,680,000	139,000

（注）時価の算定方法

- 1 対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

為替予約の受渡日（以下「当該日」といいます。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は、当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。

当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- （イ）当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- （ロ）当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

- 2 対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものではありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	3.2585円
(1万口当たり純資産額)	(32,585円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

通貨	種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
アメリカドル	国債証券	1.25 T-BOND 500515	500,000.00	506,132.81	
		1.625 T-NOTE 260215	16,000,000.00	17,190,000.00	

		1.75 T-NOTE 230515	8,000,000.00	8,361,250.00	
		2 T-BOND 500215	500,000.00	600,585.93	
		2 T-NOTE 221031	2,000,000.00	2,083,750.00	
		2 T-NOTE 250815	27,000,000.00	29,404,687.50	
		2.625 T-NOTE 290215	24,100,000.00	28,439,882.80	
		2.75 T-NOTE 240215	23,500,000.00	25,653,554.68	
		2.875 T-BOND 490515	200,000.00	282,906.25	
		3.125 T-BOND 430215	4,000,000.00	5,640,937.50	
		3.125 T-BOND 440815	6,000,000.00	8,526,093.75	
		3.875 T-BOND 400815	7,000,000.00	10,740,078.12	
		4.5 T-BOND 360215	4,000,000.00	6,233,125.00	
		4.75 T-BOND 410215	5,000,000.00	8,542,968.75	
	国債証券 小計		127,800,000.00	152,205,953.09 (16,071,426,586)	
	特殊債券	0.875 IBRD 300514	10,000,000.00	10,190,759.70	
		1.625 BK NEDERLAN 210419	5,000,000.00	5,048,460.00	
	特殊債券 小計		15,000,000.00	15,239,219.70 (1,609,109,208)	
	社債券	3.875 COOPERATIEV 220208	4,000,000.00	4,210,796.52	
		7 IBM CORP 251030	1,000,000.00	1,319,909.70	
	社債券 小計		5,000,000.00	5,530,706.22 (583,987,269)	
	アメリカドル合計			147,800,000.00	172,975,879.01 (18,264,523,063)
カナダドル	国債証券	1.5 CAN GOVT 260601	500,000.00	534,375.00	
		2.25 CAN GOVT 290601	1,000,000.00	1,160,230.00	
カナダドル合計			1,500,000.00	1,694,605.00 (134,348,284)	
オーストラリアドル	国債証券	2.25 AUST GOVT 280521	2,500,000.00	2,793,648.50	
		2.5 AUST GOVT 300521	900,000.00	1,038,859.65	
		3.25 AUST GOVT 390621	1,000,000.00	1,293,000.10	
	国債証券 小計		4,400,000.00	5,125,508.25 (391,383,809)	
	特殊債券	1.7 EIB 241115	3,000,000.00	3,137,030.40	
		3.2 INTL FINAN 271018	5,000,000.00	5,770,897.00	
	特殊債券 小計		8,000,000.00	8,907,927.40 (680,209,336)	
オーストラリアドル合計			12,400,000.00	14,033,435.65 (1,071,593,145)	
イギリスポンド	国債証券	1.25 GILT 411022	4,000,000.00	4,523,884.80	
		1.75 GILT 490122	1,500,000.00	1,940,511.30	
		4.25 GILT 551207	1,900,000.00	4,122,031.00	
			7,400,000.00	10,586,427.10	

		国債証券 小計			(1,468,443,303)
		特殊債券	6 EIB 281207	2,000,000.00	2,914,016.00
		特殊債券 小計		2,000,000.00	2,914,016.00 (404,203,159)
イギリスポンド合計				9,400,000.00	13,500,443.10 (1,872,646,462)
シンガポールドル	国債証券	2.75 SINGAPORGOVT 460301	200,000.00	275,800.00	
		3.5 SINGAPORGOVT 270301	1,600,000.00	1,892,480.00	
シンガポールドル合計				1,800,000.00	2,168,280.00 (167,282,802)
マレーシアリングット	国債証券	3.882 MALAYSIAGOV 220310	3,000,000.00	3,099,948.90	
		3.885 MALAYSIAGOV 290815	3,000,000.00	3,364,625.40	
		3.9 MALAYSIAGOV 261130	3,000,000.00	3,309,848.70	
		4.935 MALAYSIAGOV 430930	2,100,000.00	2,545,041.87	
マレーシアリングット合計				11,100,000.00	12,319,464.87 (310,820,098)
スウェーデンクローネ	国債証券	1 SWD GOVT 261112	84,000,000.00	90,568,892.40	
		1.5 SWD GOVT 231113	38,000,000.00	40,263,470.00	
		3.5 SWD GOVT 390330	9,000,000.00	14,190,670.80	
スウェーデンクローネ合計				131,000,000.00	145,023,033.20 (1,760,579,623)
ノルウェークローネ	国債証券	1.375 NORWE GOVT 300819	20,000,000.00	21,610,700.00	
		1.75 NORWE GOVT 250313	18,000,000.00	19,230,337.80	
		1.75 NORWE GOVT 290906	5,000,000.00	5,553,250.00	
		2 NORWE GOVT 230524	22,000,000.00	23,129,370.00	
ノルウェークローネ合計				65,000,000.00	69,523,657.80 (817,598,215)
メキシコペソ	国債証券	10 MEXICAN BONOS 241205	10,000,000.00	11,991,500.00	
		6.5 MEXICAN BONOS 220609	60,000,000.00	62,114,442.00	
		8.5 MEXICAN BONOS 381118	50,000,000.00	59,980,000.00	
メキシコペソ合計				120,000,000.00	134,085,942.00 (631,544,786)
イスラエルシェケル	国債証券	0.75 ISRAEL FIXED 220731	1,500,000.00	1,519,650.00	
		1 ISRAEL FIXED BO 300331	4,000,000.00	4,147,600.00	
イスラエルシェケル合計				5,500,000.00	5,667,250.00 (175,798,095)
ポーランドズロチ	国債証券	2.75 POLAND 291025	1,500,000.00	1,704,911.70	
		3.25 POLAND 250725	4,500,000.00	5,070,708.45	
		5.75 POLAND 220923	3,500,000.00	3,920,525.00	
ポーランドズロチ合計				9,500,000.00	10,696,145.15 (303,449,637)
ユーロ	国債証券	0 O.A.T 291125	2,000,000.00	2,056,310.00	

	0.1 BEL GOVT 300622	1,100,000.00	1,139,784.80	
	0.2 IRISH GOVT 301018	1,000,000.00	1,037,057.80	
	0.25 BUND 280815	3,700,000.00	3,977,019.00	
	0.25 NETH GOVT 290715	6,000,000.00	6,399,517.80	
	0.5 SPAIN GOVT 300430	9,000,000.00	9,254,952.00	
	0.75 NETH GOVT 270715	1,000,000.00	1,092,539.00	
	0.75 O.A.T 281125	9,000,000.00	9,854,388.00	
	0.9 BEL GOVT 290622	5,800,000.00	6,441,621.52	
	0.95 ITALY GOVT 230301	3,000,000.00	3,073,860.00	
	0.95 ITALY GOVT 300801	2,000,000.00	2,004,400.00	
	1 SPAIN GOVT 501031	1,500,000.00	1,481,061.00	
	1.1 IRISH GOVT 290515	1,500,000.00	1,681,343.25	
	1.25 BUND 480815	1,500,000.00	2,099,843.10	
	1.25 O.A.T 360525	16,000,000.00	19,109,072.00	
	1.6 BEL GOVT 470622	700,000.00	913,453.80	
	1.75 ITALY GOVT 240701	19,500,000.00	20,639,876.40	
	1.85 ITALY GOVT 240515	14,000,000.00	14,860,930.00	
	1.95 SPAIN GOVT 260430	12,000,000.00	13,462,320.00	
	2 O.A.T 480525	4,000,000.00	5,747,708.40	
	2.35 SPAIN GOVT 330730	9,000,000.00	11,164,248.00	
	2.45 ITALY GOVT 330901	4,000,000.00	4,595,049.60	
	4.75 ITALY GOVT 280901	6,800,000.00	8,917,792.00	
	4.9 SPAIN GOVT 400730	400,000.00	708,370.40	
	5 ITALY GOVT 400901	2,000,000.00	3,143,338.20	
	5.9 SPAIN GOVT 260730	5,000,000.00	6,814,162.50	
	国債証券 小計	141,500,000.00	161,670,018.57 (20,266,953,527)	
	社債券 2.25 BNP PARIBAS 210113	5,000,000.00	5,055,490.00	
	社債券 小計	5,000,000.00	5,055,490.00 (633,756,226)	
ユーロ合計		146,500,000.00	166,725,508.57 (20,900,709,753)	
合計			46,410,893,963 (46,410,893,963)	

(注1)通貨の種類ごとの小計／合計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入債券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
アメリカドル	国債証券 14銘柄	87.99%	34.63%

	特殊債券	2銘柄	8.81%	3.47%
	社債券	2銘柄	3.20%	1.26%
カナダドル	国債証券	2銘柄	100.00%	0.29%
オーストラリアドル	国債証券	3銘柄	36.52%	0.84%
	特殊債券	2銘柄	63.48%	1.47%
イギリスポンド	国債証券	3銘柄	78.42%	3.16%
	特殊債券	1銘柄	21.58%	0.87%
シンガポールドル	国債証券	2銘柄	100.00%	0.36%
マレーシアリンギット	国債証券	4銘柄	100.00%	0.67%
スウェーデンクローネ	国債証券	3銘柄	100.00%	3.79%
ノルウェークローネ	国債証券	4銘柄	100.00%	1.76%
メキシコペソ	国債証券	3銘柄	100.00%	1.36%
イスラエルシェケル	国債証券	2銘柄	100.00%	0.38%
ポーランドズロチ	国債証券	3銘柄	100.00%	0.65%
ユーロ	国債証券	26銘柄	96.97%	43.67%
	社債券	1銘柄	3.03%	1.37%

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)	
[令和 2年 8月 7日現在]	
資産の部	
流動資産	
預金	56,926,952
コール・ローン	6,035,742
株式	4,246,587,457
投資証券	80,478,417
未収入金	26,728,190
未収配当金	2,376,497
流動資産合計	4,419,133,255
資産合計	4,419,133,255
負債の部	
流動負債	
未払解約金	5,114,427
未払利息	4
流動負債合計	5,114,431
負債合計	5,114,431
純資産の部	

[令和 2年 8月 7日現在]

元本等	
元本	1,666,455,545
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	2,747,563,279
元本等合計	4,414,018,824
純資産合計	4,414,018,824
負債純資産合計	4,419,133,255

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1. 期首	令和 2年 2月 8日
期首元本額	1,819,750,427円
期中追加設定元本額	377,330,141円
期中一部解約元本額	530,625,023円
元本の内訳	
三菱ＵＦＪ ライフプラン 25	46,384,188円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50	173,971,562円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 75	180,879,886円
三菱ＵＦＪ 海外株式オープン	445,107,518円
三菱ＵＦＪ 海外株式オープンＶＡ（適格機関投資家限定）	360,174,319円
三菱ＵＦＪ ライフプラン 50 ＶＡ（適格機関投資家限定）	84,955,324円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 25 ＶＡ（適格機関投資家限定）	15,457,524円
三菱ＵＦＪ 世界バランスファンド 50 ＶＡ（適格機関投資家限定）	193,179,354円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定型）	11,506,783円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（安定成長型）	10,316,140円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（成長型）	8,068,976円
三菱ＵＦＪ ライフ・バランスファンド（積極型）	19,904,310円
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030	1,440,962円

	[令和 2年 8月 7日現在]
三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０	1,782,555円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定型）	8,550,788円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（安定成長型）	24,236,543円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（成長型）	18,806,021円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ライフ・バランスファンド（積極型）	25,947,470円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０３０	15,709,111円
三菱ＵＦＪ <ＤＣ>ターゲット・イヤー ファンド ２０４０	20,076,211円
合計	1,666,455,545円
２．受益権の総数	1,666,455,545口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

１ 金融商品の状況に関する事項

区分	自 令和 2年 2月 8日 至 令和 2年 8月 7日
１．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
２．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。
３．金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

２ 金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
１．貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
２．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。

区分	[令和 2年 8月 7日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	[令和 2年 8月 7日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
株式	643,840,526
投資証券	18,814,871
合計	662,655,397

(注)当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（１口当たり情報）

	[令和 2年 8月 7日現在]
1口当たり純資産額	2.6487円
(1万口当たり純資産額)	(26,487円)

附属明細表

第１ 有価証券明細表
(1)株式

(単位：円)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカドル	CHEVRON CORP	7,064	87.47	617,888.08	
	DIAMONDBACK ENERGY INC	1,600	40.73	65,168.00	
	SHERWIN-WILLIAMS CO/THE	843	654.57	551,802.51	
	VULCAN MATERIALS CO	6,236	126.40	788,230.40	
	CATERPILLAR INC	4,092	134.39	549,923.88	
	FORTIVE CORP	9,287	70.70	656,590.90	
	HEICO CORP-CLASS A	9,052	81.86	740,996.72	
	ROPER TECHNOLOGIES INC	2,536	436.98	1,108,181.28	
	COSTAR GROUP INC	1,476	831.50	1,227,294.00	
	TESLA INC	737	1,489.58	1,097,820.46	
	DR HORTON INC	11,043	67.62	746,727.66	
	ALPHABET INC-CL C	668	1,500.10	1,002,066.80	
	FACEBOOK INC-CLASS A	1,500	265.28	397,920.00	
	NETFLIX INC	682	509.08	347,192.56	
	AMAZON.COM INC	752	3,225.00	2,425,200.00	
	BOOKING HOLDINGS INC	129	1,751.79	225,980.91	
	HOME DEPOT INC	1,573	269.37	423,719.01	
	ULTA BEAUTY INC	937	204.01	191,157.37	
	COSTCO WHOLESALE CORP	1,264	343.31	433,943.84	
	ABIOMED INC	855	314.98	269,307.90	
	ALIGN TECHNOLOGY INC	1,114	301.80	336,205.20	
	INTUITIVE SURGICAL INC	1,080	691.25	746,550.00	
	ABBVIE INC	4,228	92.57	391,385.96	
	ZOETIS INC	6,525	161.33	1,052,678.25	
	CITIGROUP INC	8,259	50.89	420,300.51	
	CITIZENS FINANCIAL GROUP	15,332	24.76	379,620.32	
	COMERICA INC	10,767	38.13	410,545.71	
	S&P GLOBAL INC	2,344	352.57	826,424.08	
	PROGRESSIVE CORP	6,612	89.61	592,501.32	
	ADOBE INC	657	464.11	304,920.27	
	AUTODESK INC	3,501	243.57	852,738.57	
	CADENCE DESIGN SYS INC	6,904	110.52	763,030.08	
	MICROSOFT CORP	7,081	216.35	1,531,974.35	
	PAYPAL HOLDINGS INC	5,036	204.09	1,027,797.24	
	SALESFORCE.COM INC	6,058	207.79	1,258,791.82	
	VISA INC-CLASS A SHARES	4,163	198.77	827,479.51	

	VMWARE INC-CLASS A	4,871	144.34	703,080.14	
	WORKDAY INC-CLASS A	2,233	183.69	410,179.77	
	APPLE INC	3,240	455.61	1,476,176.40	
	T-MOBILE US INC	5,817	108.10	628,817.70	
	SEMPRA ENERGY	5,092	128.20	652,794.40	
	NVIDIA CORP	450	453.42	204,039.00	
アメリカドル 小計		173,690		29,665,142.88 (3,132,342,436)	
カナダドル	MANULIFE FINANCIAL CORP	12,400	19.43	240,932.00	
	SHOPIFY INC - CLASS A	600	1,446.60	867,960.00	
カナダドル 小計		13,000		1,108,892.00 (87,912,957)	
オーストラリアドル	BHP GROUP LTD	19,390	39.82	772,109.80	
	IDP EDUCATION LTD	25,591	13.14	336,265.74	
オーストラリアドル 小計		44,981		1,108,375.54 (84,635,556)	
イギリスポンド	ASHTED GROUP PLC	6,935	25.87	179,408.45	
	HOWDEN JOINERY GROUP PLC	9,007	5.10	45,971.72	
	AUTO TRADER GROUP PLC	53,067	5.50	291,974.63	
	GLAXOSMITHKLINE PLC	9,977	15.50	154,643.50	
イギリスポンド 小計		78,986		671,998.30 (93,212,884)	
スイスフラン	NESTLE SA-REG	3,100	107.40	332,940.00	
	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	1,108	315.05	349,075.40	
	LOGITECH INTERNATIONAL-REG	2,661	66.90	178,020.90	
スイスフラン 小計		6,869		860,036.30 (99,729,809)	
香港ドル	ANHUI CONCH CEMENT CO LTD-H	32,000	60.45	1,934,400.00	
	TENCENT HOLDINGS LTD	7,000	555.50	3,888,500.00	
	AIA GROUP LTD	32,400	71.60	2,319,840.00	
香港ドル 小計		71,400		8,142,740.00 (110,904,118)	
ニュージーランドドル	FISHER & PAYKEL HEALTHCARE C	15,184	36.45	553,456.80	
ニュージーランドドル 小計		15,184		553,456.80 (39,074,050)	
スウェーデンクローネ	SANDVIK AB	7,154	168.80	1,207,595.20	
	SWEDISH MATCH AB	3,038	680.80	2,068,270.40	
スウェーデンクローネ 小計		10,192		3,275,865.60 (39,769,008)	
デンマーククローネ	NOVO NORDISK A/S-B	3,940	400.40	1,577,576.00	
		3,940		1,577,576.00	

デンマーククローネ 小計				(26,534,828)	
ユーロ	NESTE OYJ	8,618	40.10	345,581.80	
	THALES SA	2,636	65.74	173,290.64	
	FERRARI NV	2,393	156.70	374,983.10	
	ADIDAS AG	1,434	244.30	350,326.20	
	HERMES INTERNATIONAL	285	686.40	195,624.00	
	VIVENDI	10,700	23.50	251,450.00	
	HELLOFRESH SE	8,877	47.90	425,208.30	
	INDUSTRIA DE DISENO TEXTIL	6,104	22.38	136,607.52	
	BEIERSDORF AG	1,854	97.14	180,097.56	
	L'OREAL	1,021	279.00	284,859.00	
	GALAPAGOS NV	1,330	158.50	210,805.00	
	CREDIT AGRICOLE SA	12,402	8.44	104,697.68	
	ALLIANZ SE-REG	776	177.90	138,050.40	
	DASSAULT SYSTEMES SA	2,549	150.40	383,369.60	
	NOKIA OYJ	30,893	4.19	129,441.67	
	ASML HOLDING NV	1,829	307.90	563,149.10	
ユーロ 小計		93,701		4,247,541.57	
				(532,471,811)	
合 計		511,943		4,246,587,457	
				(4,246,587,457)	

(注1)通貨の種類ごとの小計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

通貨	種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
アメリカドル	投資証券	SBA COMMUNICATIONS CORP	2,480	762,178.40	
アメリカドル合計			2,480	762,178.40	
				(80,478,417)	
合 計				80,478,417	
				(80,478,417)	

(注1)通貨の種類ごとの小計／合計欄の()内は、邦貨換算額であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

種類	銘柄数	組入株式 時価比率	組入投資証券 時価比率	有価証券の 合計金額に 対する比率
----	-----	--------------	----------------	-------------------------

アメリカドル	株式	42銘柄	97.50%	—	72.39%
	投資証券	1銘柄	—	2.50%	1.86%
カナダドル	株式	2銘柄	100.00%	—	2.03%
オーストラリアドル	株式	2銘柄	100.00%	—	1.96%
イギリスポンド	株式	4銘柄	100.00%	—	2.15%
スイスフラン	株式	3銘柄	100.00%	—	2.30%
香港ドル	株式	3銘柄	100.00%	—	2.56%
ニュージーランドドル	株式	1銘柄	100.00%	—	0.90%
スウェーデンクローネ	株式	2銘柄	100.00%	—	0.92%
デンマーククローネ	株式	1銘柄	100.00%	—	0.61%
ユーロ	株式	16銘柄	100.00%	—	12.31%

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

２【ファンドの現況】

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０３０】

【純資産額計算書】

令和 ２年 ８月３１日現在

（単位：円）

資産総額	36,638,122
負債総額	29,033
純資産総額（ - ）	36,609,089
発行済口数	34,558,299口
１口当たり純資産価額（ / ）	1.0593
（10,000口当たり）	（10,593）

【三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド ２０４０】

【純資産額計算書】

令和 ２年 ８月３１日現在

（単位：円）

資産総額	30,561,421
負債総額	30,763
純資産総額（ - ）	30,530,658
発行済口数	28,399,110口
１口当たり純資産価額（ / ）	1.0751
（10,000口当たり）	（10,751）

（参考）

三菱ＵＦＪ 国内債券アクティブマザーファンド

純資産額計算書

令和 ２年 ８月３１日現在

（単位：円）

資産総額	11,622,260,936
負債総額	180,593,003
純資産総額（ - ）	11,441,667,933
発行済口数	7,825,449,499口

1口当たり純資産価額（ / ）	1.4621
（ 10,000口当たり ）	（ 14,621 ）

三菱ＵＦＪ 国内株式アクティブマザーファンド

純資産額計算書

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産総額	7,877,262,786
負債総額	4,850,405
純資産総額（ - ）	7,872,412,381
発行済口数	5,264,973,170口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.4952
（ 10,000口当たり ）	（ 14,952 ）

三菱ＵＦＪ 海外債券アクティブマザーファンド

純資産額計算書

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産総額	47,631,299,086
負債総額	745,599,446
純資産総額（ - ）	46,885,699,640
発行済口数	14,544,787,373口
1口当たり純資産価額（ / ）	3.2235
（ 10,000口当たり ）	（ 32,235 ）

三菱ＵＦＪ 海外株式アクティブマザーファンド

純資産額計算書

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産総額	4,552,188,071
負債総額	25,461,502
純資産総額（ - ）	4,526,726,569
発行済口数	1,619,588,246口
1口当たり純資産価額（ / ）	2.7950

（ 10,000口当たり ）	（ 27,950 ）
----------------	------------

マネー・マーケット・マザーファンド

純資産額計算書

令和 2年 8月31日現在

（単位：円）

資産総額	1,186,169,531
負債総額	19,779,062
純資産総額（ - ）	1,166,390,469
発行済口数	1,145,527,299口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.0182
（ 10,000口当たり ）	（ 10,182 ）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（ 1 ）名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定められ、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（ 2 ）受益者等に対する特典

該当事項はありません。

（ 3 ）譲渡制限の内容

該当事項はありません。

（ 4 ）受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記

録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（５）受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（６）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等に当たって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第１【委託会社等の概況】

１【委託会社等の概況】

（１）資本金の額等

2020年8月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近５年間における資本金の額の増減はありません。

（２）委託会社の機構

・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の３分の１以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

・投資運用の意思決定機構

投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

運用戦略の決定

運用戦略委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

投資行動のモニタリング１

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。

投資行動のモニタリング２

運用部から独立した管理担当部署は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、リスク管理委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

２【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信

託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2020年 8月31日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本 数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	868	14,374,966
追加型公社債投資信託	16	1,375,722
単位型株式投資信託	69	349,152
単位型公社債投資信託	24	124,345
合 計	977	16,224,184

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

（１）財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱ＵＦＪ国際投信株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

なお、財務諸表に掲載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

（２）監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35期事業年度（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

（１）【貸借対照表】

(単位：千円)

	第34期 (平成31年3月31日現在)		第35期 (令和2年3月31日現在)	
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	2	53,969,686	2	56,398,457
有価証券		1,403,513		1,960,318
前払費用		514,587		575,904
未収入金		2,284		14,559
未収委託者報酬		9,995,458		10,296,453
未収収益	2	560,483	2	638,994
金銭の信託	2	100,000	2	100,000

その他		153,256		254,330
流動資産合計		66,699,271		70,239,017
固定資産				
有形固定資産				
建物	1	617,032	1	584,048
器具備品	1	665,247	1	871,893
土地		628,433		628,433
有形固定資産合計		1,910,713		2,084,375
無形固定資産				
電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		3,670,753		3,369,611
ソフトウェア仮勘定		536,345		1,374,932
無形固定資産合計		4,222,921		4,760,365
投資その他の資産				
投資有価証券		21,408,781		16,704,756
関係会社株式		320,136		320,136
投資不動産	1	824,268	1	819,255
長期差入保証金		593,536		565,358
前払年金費用		415,234		375,031
繰延税金資産		1,496,180		1,912,824
その他		45,230		45,230
貸倒引当金		23,600		23,600
投資その他の資産合計		25,079,767		20,718,993
固定資産合計		31,213,401		27,563,734
資産合計		97,912,673		97,802,752

(単位：千円)

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	293,258	687,565
未払金		
未払収益分配金	170,281	131,478
未払償還金	448,695	395,400
未払手数料	2 3,990,054	2 4,026,078
その他未払金	2 3,961,765	2 3,818,195
未払費用	2 3,803,995	2 4,402,578
未払消費税等	194,852	629,469
未払法人税等	573,657	617,341
賞与引当金	901,135	933,517
役員賞与引当金	140,100	124,590
その他	868,992	701,285
流動負債合計	15,346,788	16,467,499
固定負債		
長期未払金	43,200	32,400
退職給付引当金	860,851	1,010,401
役員退職慰労引当金	144,303	130,784

時効後支払損引当金	247,767	238,811
固定負債合計	1,296,122	1,412,398
負債合計	16,642,910	17,879,897
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,131	2,000,131
資本剰余金		
資本準備金	3,572,096	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712	44,732,712
利益剰余金		
利益準備金	342,589	342,589
その他利益剰余金		
別途積立金	6,998,000	6,998,000
繰越利益剰余金	26,069,594	25,847,605
利益剰余金合計	33,410,184	33,188,194
株主資本合計	80,143,028	79,921,039

(単位：千円)

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,126,733	1,815
評価・換算差額等合計	1,126,733	1,815
純資産合計	81,269,762	79,922,854
負債純資産合計	97,912,673	97,802,752

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	70,375,414	67,967,489
投資顧問料	2,505,299	2,385,084
その他営業収益	18,844	16,085
営業収益合計	72,899,557	70,368,658
営業費用		
支払手数料	2 28,533,952	2 27,106,451
広告宣伝費	739,643	696,418
公告費	500	1,000
調査費		
調査費	1,794,755	1,857,271
委託調査費	12,194,996	11,579,175
事務委託費	1,016,816	847,769
営業雑経費		

通信費	170,794	153,731
印刷費	427,442	427,118
協会費	48,375	52,053
諸会費	16,175	15,990
事務機器関連費	1,841,631	1,953,926
営業費用合計	46,785,083	44,690,907
一般管理費		
給料		
役員報酬	349,083	331,987
給料・手当	6,453,717	6,611,427
賞与引当金繰入	901,135	933,517
役員賞与引当金繰入	140,100	124,590
福利厚生費	1,234,293	1,276,950
交際費	13,011	11,871
旅費交通費	200,426	165,891
租税公課	373,201	360,165
不動産賃借料	654,886	647,402
退職給付費用	428,912	422,919
役員退職慰労引当金繰入	51,159	48,183
固定資産減価償却費	1,252,321	1,307,555
諸経費	523,213	427,212
一般管理費合計	12,575,461	12,669,674
営業利益	13,539,012	13,008,076

(単位：千円)

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	181,073	90,965
受取利息	2 1,913	2 4,169
投資有価証券償還益	416,706	585,179
収益分配金等時効完成分	44,392	101,734
受取賃貸料	2 38,388	2 65,808
その他	11,871	19,987
営業外収益合計	694,346	867,845
営業外費用		
投資有価証券償還損	118,173	96,379
時効後支払損引当金繰入	1,166	-
事務過誤費	420	3,483
賃貸関連費用	35,994	20,339
その他	1,481	1,920
営業外費用合計	157,235	122,122
経常利益	14,076,123	13,753,799
特別利益		
投資有価証券売却益	501,778	174,842
特別利益合計	501,778	174,842
特別損失		
投資有価証券売却損	135,399	75,963
投資有価証券評価損	62,310	163,865
固定資産除却損	1 4,848	1 8,832

固定資産売却損		225		435
システム関連費		322,986		-
商標使用料		90,000		-
特別損失合計		615,770		249,096
税引前当期純利益		13,962,130		13,679,545
法人税、住民税及び事業税	2	4,420,179	2	4,146,534
法人税等調整額		100,112		79,824
法人税等合計		4,320,066		4,226,359
当期純利益		9,642,064		9,453,186

（３）【株主資本等変動計算書】

第34期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		利益剰余金合計	
						別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	27,790,911	35,131,500	81,864,344
当期変動額									
剰余金の配当							11,363,380	11,363,380	11,363,380
当期純利益							9,642,064	9,642,064	9,642,064
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	1,721,316	1,721,316	1,721,316
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,069,594	33,410,184	80,143,028

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,484,913	1,484,913	83,349,257
当期変動額			
剰余金の配当			11,363,380
当期純利益			9,642,064
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	358,179	358,179	358,179
当期変動額合計	358,179	358,179	2,079,495
当期末残高	1,126,733	1,126,733	81,269,762

第35期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		利益剰余金合計	
						別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,069,594	33,410,184	80,143,028
当期変動額									
剰余金の配当							9,675,175	9,675,175	9,675,175
当期純利益							9,453,186	9,453,186	9,453,186
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	221,989	221,989	221,989
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	25,847,605	33,188,194	79,921,039

	評価・換算差額等	
--	----------	--

	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
当期首残高	1,126,733	1,126,733	81,269,762
当期変動額			
剰余金の配当			9,675,175
当期純利益			9,453,186
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	1,124,917	1,124,917	1,124,917
当期変動額合計	1,124,917	1,124,917	1,346,907
当期末残高	1,815	1,815	79,922,854

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	3年～47年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(3) 「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」の適用

令和2年度税制改正において従来の連結納税制度が見直され、グループ通算制度に移行する税制改正法（「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号））が令和2年3月27日に成立しておりますが、繰延税金資産の額について、実務対応報告第39号「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」により企業会計基準適用指針第28号「税効果会計に係る会計基準の適用指針」第44項の定めを適用せず、改正前の税法の規定に基づいて算定しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

令和4年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 令和元年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 令和2年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス（国際財務報告基準（IFRS）においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」）を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわせない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

(2)適用予定日

令和4年3月期の期首から適用します。

(3)当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で未定であります。

(貸借対照表関係)

1.有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
建物	551,025千円	599,542千円
器具備品	1,350,407千円	1,408,613千円
投資不動産	138,024千円	145,391千円

2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
預金	240,211千円	314,247千円
未収収益	25,307千円	15,773千円
金銭の信託	100,000千円	100,000千円
未払手数料	671,568千円	712,210千円
その他未払金	3,217,341千円	3,029,426千円
未払費用	444,754千円	432,019千円

(損益計算書関係)

1.固定資産除却損の内訳

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
建物	2,547千円	—
器具備品	2,301千円	8,832千円
計	4,848千円	8,832千円

2.関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
支払手数料	5,298,064千円	5,234,629千円
受取利息	3千円	2千円
受取賃貸料	38,388千円	65,808千円

法人税、住民税及び事業税

3,216,517千円

3,030,180千円

（株主資本等変動計算書関係）

第34期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成30年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	11,363,380千円
1株当たり配当額	53,707円
基準日	平成30年3月31日
効力発生日	平成30年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和元年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,675,175千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	45,728円
基準日	平成31年3月31日
効力発生日	令和 元年6月27日

第35期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

令和元年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,675,175千円
1株当たり配当額	45,728円
基準日	平成31年3月31日
効力発生日	令和 元年6月27日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和2年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,457,670千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	44,700円
基準日	令和2年3月31日
効力発生日	令和2年6月29日

（リース取引関係）

借主側

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
1年内	675,956千円	675,956千円
1年超	675,956千円	—
合計	1,351,912千円	675,956千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、譲渡性預金または投資信託に限定しており、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

第34期(平成31年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	53,969,686	53,969,686	-
(2) 有価証券	1,403,513	1,403,513	-
(3) 未収委託者報酬	9,995,458	9,995,458	-
(4) 投資有価証券	21,353,421	21,353,421	-
資産計	86,722,080	86,722,080	-
(1) 未払手数料	3,990,054	3,990,054	-
負債計	3,990,054	3,990,054	-

第35期(令和2年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	56,398,457	56,398,457	-
(2) 有価証券	1,960,318	1,960,318	-
(3) 未収委託者報酬	10,296,453	10,296,453	-
(4) 投資有価証券	16,673,396	16,673,396	-
資産計	85,328,625	85,328,625	-
(1) 未払手数料	4,026,078	4,026,078	-
負債計	4,026,078	4,026,078	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、(4) 投資有価証券

これらはすべて投資信託であり、時価は基準価額によっております。

負 債

(1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
非上場株式	55,360	31,360
子会社株式	160,600	160,600
関連会社株式	159,536	159,536

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第34期(平成31年3月31日現在)

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	53,969,686	-	-	-
未収委託者報酬	9,995,458	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,403,513	9,358,708	5,874,634	90,573
合計	65,368,659	9,358,708	5,874,634	90,573

第35期(令和2年3月31日現在)

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	56,398,457	-	-	-
未収委託者報酬	10,296,453	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,960,318	5,652,257	4,813,929	27,375
合計	68,655,228	5,652,257	4,813,929	27,375

（有価証券関係）

1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

2. その他有価証券

第34期(平成31年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	14,744,545	12,559,380	2,185,164
	小計	14,744,545	12,559,380	2,185,164
貸借対照表計	株式	-	-	-

上額が取得原価を超えないもの	債券	-	-	-
	その他	8,012,389	8,573,551	561,161
	小計	8,012,389	8,573,551	561,161
合計		22,756,935	21,132,932	1,624,002

第35期(令和2年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	9,859,345	8,694,010	1,165,334
	小計	9,859,345	8,694,010	1,165,334
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	8,774,369	9,937,087	1,162,718
	小計	8,774,369	9,937,087	1,162,718
合計		18,633,714	18,631,098	2,616

3.売却したその他有価証券

第34期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	140,240	58,440	-
債券	-	-	-
その他	5,222,594	443,338	135,399
合計	5,362,834	501,778	135,399

第35期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	8,940	-	15,060
債券	-	-	-
その他	2,035,469	174,842	60,903
合計	2,044,409	174,842	75,963

4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について62,310千円（その他有価証券のその他62,310千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について163,865千円（その他有価証券のその他163,865千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,729,252 千円	3,712,289 千円

勤務費用	193,531	204,225
利息費用	24,351	17,557
数理計算上の差異の発生額	15,898	52,430
退職給付の支払額	218,947	162,904
過去勤務費用の発生額	-	-
退職給付債務の期末残高	3,712,289	3,718,736

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
年金資産の期首残高	2,723,393 千円	2,666,937 千円
期待運用収益	48,664	47,757
数理計算上の差異の発生額	4,606	164,633
事業主からの拠出額	102,564	51,282
退職給付の支払額	203,077	140,518
年金資産の期末残高	2,666,937	2,460,824

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
積立型制度の退職給付債務	3,125,760 千円	2,969,807 千円
年金資産	2,666,937	2,460,824
	458,822	508,982
非積立型制度の退職給付債務	586,529	748,929
未積立退職給付債務	1,045,351	1,257,911
未認識数理計算上の差異	114,968	203,136
未認識過去勤務費用	484,766	419,405
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	445,616	635,370
退職給付引当金	860,851	1,010,401
前払年金費用	415,234	375,031
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	445,616	635,370

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
勤務費用	193,531 千円	204,225 千円
利息費用	24,351	17,557
期待運用収益	48,664	47,757
数理計算上の差異の費用処理額	43,633	24,035
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
その他	5,986	6,427
確定給付制度に係る退職給付費用	284,199	269,848

（注）「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額です。

(5)年金資産に関する事項
年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
債券	63.9 %	64.7 %
株式	33.2	32.3
その他	2.9	3.0
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
割引率	0.035～0.49%	0.095～0.52%
長期期待運用収益率	1.5～1.8%	1.5～1.8%

3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度144,712千円、当事業年度153,070千円であります。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	第34期 (平成31年3月31日現在)	第35期 (令和2年3月31日現在)
繰延税金資産		
減損損失	436,050千円	427,046千円
投資有価証券評価損	223,821	226,322
未払事業税	109,109	117,461
賞与引当金	275,927	285,842
役員賞与引当金	19,428	19,703
役員退職慰労引当金	44,185	40,046
退職給付引当金	263,592	309,384
減価償却超過額	157,741	96,767
委託者報酬	264,398	213,044
長期差入保証金	31,721	40,180
時効後支払損引当金	75,866	73,124
連結納税適用による時価評価	148,858	57,656
その他	71,320	123,248
繰延税金資産 小計	2,122,023	2,029,829
評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	2,122,023	2,029,829
繰延税金負債		
前払年金費用	127,144	114,834
連結納税適用による時価評価	1,320	1,260
その他有価証券評価差額金	497,269	801
その他	108	109
繰延税金負債 合計	625,842	117,005
繰延税金資産の純額	1,496,180	1,912,824

2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第34期（平成31年3月31日現在）及び第35期（令和2年3月31日現在）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第34期（自平成30年4月1日至平成31年3月31日）及び第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第34期（自平成30年4月1日至平成31年3月31日）及び第35期（自平成31年4月1日至令和2年3月31日）

1.製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

（1）営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3.主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連当事者情報）

1.関連当事者との取引

（1）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第34期（自平成30年4月1日至平成31年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注4)	科目	期末残高 (注4)
親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税	連結納税に 伴う支払 (注1)	3,216,517 千円	その他未払金	3,217,341 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等 投資の助言 役員の兼任	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2) 投資助言料 (注3)	5,298,064 千円 695,834 千円	未払手数料 未払費用	671,568 千円 365,510 千円

第35期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注4)	科目	期末残高 (注4)
親会社	(株)三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税	連結納税に 伴う支払 (注1)	3,030,180 千円	その他未払金	3,029,426 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行(株)	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等 投資の助言 役員の兼任	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2) 投資助言料 (注3)	5,234,629 千円 583,270 千円	未払手数料 未払費用	712,210 千円 302,681 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 連結納税制度に基づく連結法人税の支払予定額であります。

2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。

4. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第34期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注4)	科目	期末残高 (注4)
同一の親会社を持つ会社	(株)三菱UFJ 銀行	東京都 千代田 区	1,711,958 百万円	銀行業	なし (注1)	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等 取引銀行	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2) コーラブル預 金の預入 (注3) コーラブル預 金に係る受取 利息 (注3)	4,629,670 千円 20,000,000 千円 1,578 千円	未払手数料 現金及び 預金 未収収益	734,633 千円 20,000,000 千円 1,578 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・ スタンレー 証券(株)	東京都 千代田 区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2)	6,152,016 千円	未払手数料	962,840 千円

第35期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注4)	科目	期末残高 (注4)
----	--------	-----	-----	-------	------------------------	---------------	-------	--------------	----	--------------

同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払（注2）	4,073,855 千円	未払手数料	697,109 千円
						取引銀行	コーラブル預金の払戻（注3）	20,000,000 千円		
							コーラブル預金の預入（注3）	20,000,000 千円	現金及び預金	20,000,000 千円
							コーラブル預金に係る受取利息（注3）	4,126 千円	未収収益	997 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払（注2）	5,714,501 千円	未払手数料	944,351 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. ㈱三菱UFJ銀行は、平成30年4月2日付で、保有する当社株式のすべてを㈱三菱UFJフィナンシャル・グループに対して現物配当しております。その結果、㈱三菱UFJ銀行は当社の主要株主から同一の親会社を持つ会社に該当することとなりました。
- なお、㈱三菱UFJフィナンシャル・グループは、同日付で、取得した当社株式のすべてを会社分割の方法により三菱UFJ信託銀行㈱に対して承継させております。
2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
3. 預金利率の条件は、市場金利等を勘案して決定しております。なお、預入期間は1年であります。
4. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場）

三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社（非上場）

（１株当たり情報）

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
1株当たり純資産額	384,107.08円	377,741.17円
1株当たり当期純利益金額	45,571.50円	44,678.80円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第34期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第35期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
当期純利益金額（千円）	9,642,064	9,453,186

普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	9,642,064	9,453,186
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581	211,581

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（1）受託会社

名称：三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

資本金の額：324,279百万円（2020年3月末現在）

事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

（2）販売会社

名称	資本金の額 (2020年3月末現在)	事業の内容
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	1,711,958 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社大垣共立銀行	46,773 百万円	銀行業務を営んでいます。
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	324,279 百万円	銀行業務および信託業務を営んでいます。

ＯＫＢ証券株式会社	1,500 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
-----------	-----------	-------------------------------

２【関係業務の概要】

- （１）受託会社：ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理等を行います。
- （２）販売会社：ファンドの募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱い等を行います。

３【資本関係】

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。（2020年8月末現在）

三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%（211,581株）を所有しています。

（注）関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が３％以上のものを記載しています。

第３【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2020年 5月 1日	有価証券届出書
2020年 5月 1日	有価証券報告書

独立監査人の監査報告書

令和2年6月26日

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社

取締役会 御 中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 青 木 裕 晃 印

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 伊 藤 鉄 也 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ国際投信株式会社の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社の令和2年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和２年９月９日

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 和田 渉 印
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030の令和２年２月８日から令和２年８月７日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2030の令和２年８月７日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和２年９月９日

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 和田 渉 印
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040の令和２年２月８日から令和２年８月７日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱ＵＦＪ ターゲット・イヤーファンド 2040の令和２年８月７日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱ＵＦＪ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱ＵＦＪ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。